第四百六十二號目次

◎口　繪
宗教的東方問題寓意畫

◎社　說
宗教的東方問題

◎女　學
女學校内の男性
ウィラード女史を吊す
工女統計

◎評　論
機先論　觀潮菴主人

◎教　育
泊害せよ然らざれば勝負せよ
雜居後の準備◎同志社問題◎宗教學校問題◎放言問答　如雲散士

◎隨　感
小さき人の獨旅◎微笑して獨り樂む

◎雜　錄
情死の哀を想ふ(上)
江戸の華(二)　花影子
美人　みわ生

◎時　文
日本女子百傑◎新著月刊◎春陽文庫

◎片々◎時報

●[illegible]誌發送の義は凡て前金の定めなれども引續購讀の方々には前金相切れ候とも御斷無之間は依然發送致すべく候間爲念申置候也●

社　告

◎本誌は毎月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す
◎十日發行の分は稍や簡易實際を事にし、家庭の整理改善に益ある事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學教界に對する吾黨多年の主義を發表するもの。
◎單に十日發行の分のみを購求せんと所望せらるるものあらば其望に應ずべし

●女學雜誌定價表●

前金		
壹冊		金拾錢
半年	前金	金壹圓拾錢
一年	前金	金貳圓
(内國無郵税)		
代金は凡べて前金の事◎前金切れ候とも御斷無之間は引續き發送することも可有之		

廣告料		
一行	一回(廿七字詰)	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

送金
爲替は東京本郷駒込郵便支局に宛て小爲替にすべし〇郵便切手にて送る人は五厘切手にて且つ一割増を添ふべし

明治廿七年二月十九日内務省許可
明治三十一年三月三十日印刷
明治三十一年三月卅一日發行

東京府北豐島郡巣鴨村字庚申塚六百六十番地
發行兼編輯者　巖本善治
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十六番地
印刷者　島保藏
東京府北豐島郡巣鴨村字庚申塚二百四十六番地
發行所　女學雜誌社
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場
(電話本局十九番)

社　告

櫻井成明譯
緋立比物語　正價金二十八錢　郵税金六錢

横山雅男著
婚姻論　正價金十二錢　郵税金四錢

若松賤子譯
小公子　正價金三十五錢　郵税金八錢

布川靜淵、故小此木秀野合著
俳諧史傳　正價金二十七錢　郵税金四錢

故鈴木弘恭述
百人一首講義　正價金二十八錢　郵税金四錢

同
文法口授　正價金十二錢　郵税金二錢

●前號(三月十日發行第四百六十一號)要目●

口繪＝哀別離苦(普佛戰爭紀念碑面の彫刻)◎小學卒業後の女子＝今時の男子＝堅固なる家政＝器物の取扱及掃除＝男女交友の鑑＝聖女ポーラ＝植木盆石の談＝杜律釋義＝江戸の華(二)(東都懷古)＝故小此木秀野の絕筆小說

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

[illegible]

歸文

日本文

[illegible]

前金	廣告料
半年 … 一年 … 郵税 … 代金 … 斷	一 … 切 …

[illegible]

僞

[illegible] 前此 [illegible] 六十 [illegible] 日 [illegible] 約 [illegible] 間 [illegible] 小 [illegible] 後の女子 [illegible] 時の [illegible] 一 [illegible] 男女 [illegible] 女 [illegible] ラ [illegible] 江戸の [illegible] 一 [illegible]

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第四百六拾二號

明治三十一年三月三十一日發兌

社説

宗教的東方問題

吾人、曾て論じて言く、

數年前來、吾黨が同胞に警告したる『宗教的東方問題』なるもの、如今、益々切迫せり。大日本帝國の力量、世界に公開せられ、近時勃如として、その大膨脹の勢機を決してより、此の問題や、彌よ切迫せり。凡そ如何なる勢力ありと雖ども、義の名に於てする勢力ばかり強大なるものはあらず。義の名の存する所は、不可思議なる援助の加はる所なり。之を天祐と言はんか、之を大法と言はんか、之を人生の秘義と言はんか。凡そ、義の在る所は、聖なる能力の居ます所。例へば鷲鷹の玆に下るが如く、天のマナの玆に落るが如く、聖靈の鳩の飛び來るが如く、日光の雲を破つて射降するが如く、人力の極致、即はち、人事以外の一大勢力、嚴として此が上に其座を定めんとす。人心、苟くも此と合しなば、如何なる勢力なりと雖ども、遂に之を動かすと能はざる也。

歐洲白皙の徒、もし利益の名に於て起つあらば、未だ恐るゝに足らず。もし權力平均の名に於て起つありとも、未だ懼るに足らず、只だ、夫れ、義の名に於て起つとありとせば、連衡忽ち成り、一火枯草を燒き、全洲暫くにして一大合同を遂げん、其の、異人種に對し、異宗敎の國に對する時に於て、特に尤とも然りとなす。

曰く、白皙人種以外の人種の勢力を得るは、人類惣躰の進歩の爲に害ありと。曰く、基督敎以外の異敎國が勢力を得るは、世界の救濟の爲めに害ありと。凡そ此等の陳言は、或る人士の聞く所に於て、不公平、不道理の曲辯たるに過ぎじ。歐洲人にして此の如く論ずるは、單に其の私利を遂るの辭柄たるに過ぎずと見えん。然りと雖も、論理の極致は、直覺なり、

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

直覺の裏面は、情感なり。異習慣、異性情の人に於て、極めし不道理らしく認識せらるゝの論理も、他に於ては、明白公平にして、殆ど解釋すべき必要なきが如くなること、即はち、人事の奇態なり。試みに、之を日常の間に視察し、大に階級を異にせる社會に徵して、其の事實を視よ、論理の終極の標準は、直覺に訴ふるの外あらざるに非ずや。而して、直覺が習慣と感情とに由りて養はるゝの所以を知らば、天下の公道に於けるの解釋にすら、東西千里、人種別色の故によりて、殆んど表裏明暗の大懸隔を爲すを怪しむことなからん也。

英國の前宰相老偉人は、一世の人傑也。彼が聰慧と、良心とを疑ふものはあらじ。然れども、彼は近日の告白に於て、基督教國以外に眞誠の道德なきことを明言したり。夫れ、此の老偉人が、大英國に於ける不思議なる勢力の秘訣は、其宗教上の品格にあり、彼が宗教上の告白は、たとひ常に保守の僻を存することはあらんと雖ども、其告白の英國人民が宗教上情感に適和することあるは、疑ふ可らず。一事以て万事の類推に用ゆべきことあり。老偉人が此の短き告白は長き意味を有す、歐洲白皙人種中の、尤とも健全なる分子、又、其の保守僻あると共に尤とも手堅き分子、一言するに、歐洲文明國の骨となり、心膽となれる人士の直覺に於ては、白皙人種以外の人種が勢力を博し、基督教國以外の異教國が大に勃興するは、即ち、人類と世界との大害惡なることを感知するに於て、嘗て遲鈍なることあらざるべき也。故に、彼等は、此の害惡ある勃興を防遏するが爲には、義の名に於て、信仰の名に於て、故に、神聖なる上帝の名に於て、猛烈なる斷行を肯てして顧みざるの眞勇氣を煥發し來らん、義憤、獻身、火の燃ゆるが如く起らん。聖なる十字軍は、歐洲全土を捲て一大風雲の如く立たん。此時に於ては、日耳曼人種、ラテン人種、サクソン人種は、不思議なる人種なり、たとひ人は之を迷信と言ふとも、彼等には、神聖なる確信なり。たとひ人は之を不公平と云ふとも、彼等には、正明光大の偉業なり、此の不思議なる人種は、東洋人が、迷信と嘲り、不公平と憤ふる其事の爲に、純乎たる献牲的の大義戰を爲し、水火の中に殉死するを以て、マーターとし感謝すべし。吾黨は、此事の是非正邪を論ぜず、只だ此に至つての事實は、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

必らずや此の如けんと斷言す。

之を是れ歐洲人士の爲めの宗敎的東方問題と言ふ。かの商業的東方問題は、未だ懼るゝに足らず、軍港的東方問題も亦た懼るゝに足らず。獨り、此の宗敎的東方問題に至つては、大いに思慮を要すべきものあり。而して、志士の未だ大いに之に着眼せざるものは、畢竟、白皙人種の習慣を知悉せざるに由る。否な、假令其の尋常の習慣を知悉するも、彼等が宗敎上に於ける不思議なる確信を辨知せざるに由るなる耳。

吾黨は、何れにせよ、此の問題の遠からずして、絶東に押寄せ來らんとを覺悟せしが、其の來るの歩武の斯く計り急切ならんとは、意はざりき、大日本帝國は、すでに此問題の渦中に入れり、新三國同盟の相結合したる一條件、少くとも、假つて名を爲すの一辭柄には、確かに此の一問題の存ぜしとは推知せずや。

同胞、之に對する雄大の覺悟は如何にぞ。諸君、天下の大道に忠にして、其解釋を一新し、斃れて後ち止むの抱負ある乎、もしくは、度量を濶大にし、万國公用の『名』を採用し、グリンウイッチの緯度の名を用ひ、フランスの尺度の量に隨ふが如く、大道に附するの『名』に於て、天下の公用に從はんとする乎。

凡そ、此等の覺悟未だ決せず、雄大の決意未だ定まらず、たゞ、小俠の反動に誇りて、隆んに、井中の大演説を爲すとも、遂に、世界の公道に影響するとなし。個人の一生は、人生也。國民の一生は、天下の歴史也、倒るゝも、起つも、世界の歴史を動かさずして止むは、即はち、國民としての醉生夢死に外ならず。(明治廿八年秋)

吾人亦た「日本宗敎」紙上に同一の慨言を敍し、且つ曰く。記者久しく此に深痛し、則ち、數ば之を外交當局の識者に質せり。長城居士中島君は脩道の士なり、佛基兩敎を學んで各得る所あり、蓋し偏執の人にあらざる也。其の伊太利に全權公使となりて一旦歸朝せしの日、記者直ちに此憂ひを以て質せば、君の曰はく、此れ當にあり得べきの事、恐らくは將來に大患を生ぜんと。異日、亦た、伊藤侯、及、大隈伯に質すに此事を以てせしや、侯伯同に曰はく、實に此れ尤とも憂慮すべきの事勢なりと。記者此に至りて知れり、朝野の識者亦或は其の警眼を玆に着するあるとを。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

然るに、日清戰爭の砲火は、東洋の黒雲を拂ひ、日東帝國の眞價値、世界に識認せられて、歐洲列國俄然として警戒するや、皆曰く、日本の勢力斯の如し、蒙古人種昔時の長大遠征を再演するものは、豈に渠れ日本人種にはあらざる乎と。此に於てか、異人種、異宗教の勃興抑壓せざる可らずとの感覺、沸々として所々に釀發したらんかし。記者竊に惟へらく、新三國同盟の假つて以て一辭柄とせし所は必らずや宗教的東方論ならんと。果然不幸にして此言的中し、今や獨逸皇帝維廉二世が作して露帝尼哥拉第二世に贈れるてふ奇怪なる圖畫の意匠は、吾人の目前に顯現し來れり。

開卷第一葉に縮寫したるものは、即ち是れ此の眞圖畫の面目なり。看よ、白光燦々として中天に「十字」の聖架懸り、天使ミカエル掛念らしく指ざすの下に、幾多の佳人、手を翳し、眼を凝らして東方を望むの邊、釋迦佛に似たる大坐の阿羅漢、毒雲を吐き、邪氣を散らして隱見出沒せる黄龍を御し、凄まじき猛勢を發し、西方に侵し來らんとするの狀を示せるは、抑も何をか意味すと了察する。

東西を分てる一帶の白流は彼我の境界なり、巖下一面の地は歐羅巴大陸の廣原なり、巨岩の前端にありて最先に東を望める美人は夫れ佛蘭西なるか。佛蘭西の警眼は、模糊髣髴の間に逸早く電光を看取すと雖ども、其の未だ武裝せざるは、倘ほ緩なりと諷せらるゝ者か。之に接して嚴乎として立ち、劍と楯とを提げて、東方の危險を掃蕩せんず決意を示せるものは、豈に夫子戰爭王の抱負を示せる獨逸國にはあらずや。武裝佳人の肩に倚りて、緑髮眼睛を漂はする美人は、魯士亞にあらずや。更に其後に立ち、半身向背して頻りに手を揚げて他を招くものは、墺太利、若くは伊太利を表示し、其の英吉利をも亦た同盟に加入せしめんと試みつゝあるとを意味するにあらずや。

傳へ聞く、獨逸國公使は、特に此圖畫の爲に吾主相に陳謝して曰く、冀くは此を以ての故に心を煩はすとある莫れ、獨逸國裏近來社會黨の跋扈甚しきを以て、其執着を轉ぜしめて之を東方に移さんが爲に、吾皇帝偶ま此の作ありたる所以のみと。嗚呼、誰か、外交の言辭を直ちに其の表示の辯解のまゝに甘受せんや。左れど、眞に思へると假りて用ひたるとの別を爭ふとなかれ、其の何れたるかに關せず、一事は即は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

い明白なり。曰く、異宗敎、異人種の勃興に對する西洋人新十字軍の同盟の生起し得べきことは、彼等がみな自然に同意する所なる事これ也。

夫れ、利害を以て連衡するものは、亦た利害を以て分裂することあり。殊に況んや、單なる利害の問題を以て、歐洲列國を合同し、更に歐洲列國中の正義人を合一せしめんとするをや、其の方今に望み得可らざることは論ずるを待たず。但だ夫れ、宗敎上の問題は、即はち、「道」の問題なり、道の爲の離合は、即ち人生最上の尊卑の係はる所、此の名を以てして唱揚するときは、一種の魔電忽ち歐洲列國人を同打して、直ちに之を盟同合和せしめんこと必定なり。(廿九年二月)

* * * * *

須らく觀るべし、宗敎的東方問題は、曩に三國干渉に於て其の初發を決したるが、今は對岸支那諸港川の分割に於て、其の熱度を高くしたり。昔、葉公、龍を慕ひ、眞龍の現るゝに至りて驚きしが、本來之を危避せんとして而して其の來るとの迅速なるに驚くものは奈何。然りと雖も、之に驚くものに至つては尚或は可なり。未だ事の眞相を看破せず、其の宗敎的氣習の連合の故に因縁することを覺らずして、茫然偏に徒爾の慨歎を爲すもの多き、眞に笑ふべきにあらずや。

夫れ、西洋諸國を文明の國と嘆賞して、而して其文明の歸因を基督敎の故に由ると概論するもの、素より痴見たるを免れず。渠が基督敎國と稱するの故に、其の名によりて渠を叱責し、以て渠の徒の東洋諸邦に對する專橫を責めんとする、等しく亦た痴見たるを免れず。嗚呼、『名』の故に戀慕するもの、嫌惡するもの、同に一樣の愚なり。直ちに其の眞諦に徹して、人情の本相を握り、妙に世生大義の融和に會得して、以て世界公道の運爲を滑かにすることなくば、家國の隆盛、天下の泰平は未だ決して企及すること能はざる也。

林梢初日弄二陰暗一　露浥渓花笑欲レ迎
澗暗只聞泉滴瀝　山青剩見鷺分明
遠峰忽轉還如レ繞　險徑徐行亦似レ平
眞道詩成無二興和一　風篁也解レ作二吟聲一

眞山民

女學

女學校内の男子

女學校内に男性あるの可否は夙に人の疑問する所なり。之に付きて様々の論辯もありといへど、多くは一事緊要の觀察を欠き、單に男女異性相居るの可否を空論するに了るをもて、所言や、ともすれば遺憾なり。

夫れ、女學校内に男性あるヿを非とするの理由は、多くは通俗の理由なり。白日正明の高論あるにもあらず。其の解釋、人情の屈折に拘はるをもて、之を覺るものも隱微にして、不言不語の間に納得す、之れ論駁するに難き所以なり。左れば、女學校内に男性ある効益の一理由を擧げて、世人の看過するを防ぎ、用ゐて他の裏側より一生面を開かん。

夫れ、女生の智能開發に男性の感化力を有効なりとし、其の一種不可思議なる感應をもて、女性の頭腦に適する最好の良藥とするヿは、先人の既に論ぜし所也。男女相見るは、電氣の交換にして、精靈を刺激し、心氣を爽快にし、陰陽両々妙に感交して、其の莫る可らざる情覺を活かせし、悦喜滿足の氣を引起さしむるの効あるヿは、人の普く實際に於て知る所ならん。

然るに、此外に於ける一事の有効は、女性之あるによりて其の慎しみを養ひ、其の愧恥を助長し、以て女性特有の女粹を發揮し來るヿ即ち是れ也。

かの西洋人の男女の交際を目擊したるものは、其の公然たる禮儀威容の如何に嚴しく、如何に愼しみ深きかを察するヿ容易ならん。然るに、其の男子と男子と、女子と女子と、即ち單に同性の人のみ群居する時の實狀を觀るに、不用捨、不勤愼、存外に甚しきを見ん。彼等同性のみにして群居し、絶て他の性と交際するヿなかつせば、禮儀威容の發達は眞に覺束なかりしならんが、其の異性相見るの愧恥は謹愼を生じ、遂に以て各自の天稟を開發せり。男性は之を以て雄々しく、女性は之を以て優しき姿を得べし、これ男女交際より生ずる自然の益にあらずや。

家に女兒計りあると、男女双方のあると、何れか能く女兒の

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女らしき慎しみを助長するかと思へ。六歳倘は席を同うするの頃ほひに近きは固より問はず、稍や長ずるに及んでは、女兒は、其姉妹の前には不作法なるとも、其兄弟の前には一段の慎しみを爲すを見ん。之れ必らずしも敎化の制裁によりてにあらず、自然の天成なり。

左れば、古へより、女ばかり群れ居る所の姦しく騷々しきとは、稗史小說の人の種として喧傳するほどのもの也。同性相見る、何の容赦もなく、何の愧恥もなきに至るは、亦た已むとを得ざるなり。かの女學校なるものに於て稍や之に類似の結果を生じ、女生自づからデリケシーを忘れ、其の恥かしみを忘れ、其の慎しみを忘れ易きとは、多くの女學敎育者の屢ば困却する所なり。

此時に當りて、男性の校内に往來するとは、驚ろくべき有力なる威力を與へ、屢ば其の惰性を警戒し、ふとして其の不作法に反省せしめ、以て女性の粹に還らしむるの効果あるとは、たとひ其の實際を知らざるものと雖ども容易に推測し得る所ならん。

但し、慣るるときは、力を失し、慣るるに至りての害は亦た言ふを待たず。然れども、苟くも敎育を主旨とする一團躰の集合に於ては、十目の見るあり、十指の指ざすあり、禮儀自から生じ、威容自から立つ、苟くも甚しき不節の徒にあらざれば、其の範圍を侵すものはあるまじ。況してや、嚴然として敎化を施こし、恩威兼ね與へ、卓然として、其の熱誠を張らすものに於てをや。男性としての感化は、女性敎育者の與ふるが上に別に一種の加味あらん、これ莫大の益に非ずや。然りと雖ども、女性敎育に男子を優れりとするにはあらず、男子も亦た必要なりと言ふのみ。男子の敎ふる所は大躰にして宏高なり。たとひ極めて緻密なるが如きも、女子の之を聞くや倘ほ空漠の感あり。之れ、男性は理に於て緻密ならんとし、女性は情に於て緻密ならんとすれば也。此を以て、女子敎育は決して男子のみの手に委ぬべきにあらず、同時に亦た女性にのみ托するは完きを得ず。況してや方今女子の敎育者の未だ足らざる時に於てをや。他なし、女學校の敎育も亦た自然の配合に準じ、家に父母あるが如く、校に男女兩性の敎育者あるを好とす、これ自然に合するの道なり。

左れど、敎育の根柢は人品に由る、人品の伴はざる敎化は、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

教育にあらざる也。故に、教育上、技藝の用は、人物の用に若かず、男と云ひ、女と云ふの性の相違も亦た、人品の圓滿なるには若かざる也。古へより大人は男女兩性を兼備す、男女何れの教育者か、もし其の品格にして完全ならは、何ぞ必らずしも其の性の兩々相要するの理を辯ぜんや。但だ今ま夫れ、女學校内男性あるの可否を疑ふものあるが故に、則はち暫らく此の一辯を爲しつるのみ。

ウイラード女史を弔す

過日飛報あり、傳へて曰く、万國婦人矯風會々頭フランセス、イー、ウイラード女史逝くと。凡そ訃の傳はるや、常に突如どして來り、而して之はまた餘りに突如なると、其人を惜むと甚だしきとの故を以て、疑ふて訛傳なるべしとなし、またその然らんことを望みたりき。然るに哀き哉、近着「ユニオン、シグナル」は、其永眠を報じ、其最後の狀を詳にす。嗚呼、この偉大なる女丈夫は、正に長逝して、既に人の世に在らざるなり。女史は實に去る二月十八日夙朝、ニユーヨーク

府なる、ホテル、エンパイアに於て終焉せるなり。女史は千八百三十九年（我天保十年）九月二十八日を以て生れ、其死するや、享年正に五十八歳四ヶ月なりき。

今女史が最後に就いて聞くに、女史紐育のホテル、エンパイアに在りて、一月二十日の頃より、インフルエンザに犯されしかば、米國婦人矯風會副會頭スチーブンス夫人並に女史の秘書ゴルドン女史等傍に在りて、看護到らざるなかりしも、身躰次第に衰弱し、二月十二三日に至りては、いよ〳〵危篤の狀あり、聞くもの頗る之を憂へて、シカゴ矯風會本部の如きは、會員を驅集して、旻天に哀祈熱禱怠りなかりしも、既に此世に多くの事業をなして、成すべきの働きを了へたりける、女史は、命數玆に盡き、十七日の夕刻、主治醫親しく女史に告るに、殆ど快復の望みなきを以てせしや、泰然、ゴルドン女史を招きて、授くるに、婦人矯風會將來の覺悟方針を以てしたり、それより少時安眠せし後、中夜、目覺めて、姪女カザリン、ウイラード、ボルドウイン夫人、スチーブンス夫人、ゴルドン女史並に醫士ヒルスに擁せらるゝを一見し、ゴルドン女史の手を握りて、微笑を洩したる後、程なく、永

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

き眠に入りて、亦た醒むるとなし。
それより遺骸は同府なるベルドウィン夫人の家に移されて、二十日午後、ブロードウェイ殿堂に於て葬儀を執行せられしが、女史の遺言によりて、儀式等凡て質素を極めたり。式了りて後、再ひ、柩はベルドウィン夫人の宅に安んぜられ、更に翌日九時發の滊車に載せられて、シカゴに送られたり。其途、女史の生誕地なるニューヨーク州チャーチヴィルを過ぐるや、其地市民等、數時間、其行を留めて、最後の訣別をなしたり。越て二十三日朝、柩はシカゴに着して、本部のウィラード館に安置せられ、其午後、再び、女史の住み馴らしける、エヴァンストンに移され、翌即ち二十四日午前十時、女史の屬せし同地の監督メソヂスト教會に於て葬儀を執行せられ、遺骸は、ローズヒルの墓地なる、亡母氏の塋域に埋葬せられき。
女史の訃一度び市俄高府に達せしや、市長ハリソン氏の訓令によりて、市民等悉く、半旗を掲げて弔意を表し、華盛頓府民並にエヴァンストン市民等また同様の弔禮を行ひたり。
嗚呼女史は斯如くにして逝けりしなり。「評論の評論」記者

ステッド氏が、米國平民政治の無冠の女王と賛稱し、英皇ヴイクトリア陛下と此人と、これ現世界の二大婦人なり。十九世紀は婦人の時代なり、而して此二女傑は、實に此時代を代表し、而して來るべき二十世紀を敎導するものなるべしと論じたり。其ウィラード女史は、今や既に亡き人の數にいりて、天下之を哀悼せざるなし。
ウィラード女史の德行と功業とは、宇内の讃歎する處にして而して其功名は遂に不朽の譽を受けん。日本女學生の如きは、女史を仰いで、理想の人物となすや久し。吾人また切に、一度び女史の謦欬に接して、其高風を欽せんことを欲して、而して、女史のソモルセット夫人等以下を率ゐて、我邦に來遊せんとする意厚きものあるを聞いて、吾人の希望必ずや徒爲に歸せざるべきを信ぜしに、今や、俄然として、この悲訃に接す、痛惜何ぞ禁ぜん。嗚呼女史逝いて、米國は、其誇りの大なるものを喪ひたり。天下の女界は、其盟主を喪ひたり、たゞに然るのみならず、人類社會は一大損失を致したるなり。混沌たるかの不義不德の人界に在りて、多年公義人道を照したる、山上の光明、今や乍ちにして沒しぬ、哀い哉。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女工統計

觀潮菴 主人

生存競爭の劇烈なる、遂に巾幗者流を驅りて當に男子の從事すべき業務に就かざるを得ざらしむるは勢ひの免れざる所なり女工の狀態及び保護に關しては、吾人の既に屢々說述したる處なりと雖も茲に又更に其狀勢を敘して世人の注意を煩さんと欲す。

◎全國諸工場職工數

全國諸會社工場の職工總數大凡幾何有るやを考ふるに統計年鑑に依れば、左の如し。

明治二十一年	一二三、三二七	
明治二十二年	二二〇、一三八	
明治二十三年	三四六、九七九	
明治二十四年	三二一、六二四	
明治二十五年	二九四、四二五	
明治二十六年	二八五、四七八	
明治二十七年	三八一、三九〇	内男一四一、九一四 内女二三九、四七六
明治二十八年	四一八、一四〇	内男一六九、五一五 内女二四八、六二三

右表中二十一年より二十六年に至る五年間男女工の割合を知る能はざるも、女工の數は男工數に比して殆んど二倍の比例を見るは推知せらるへきものあり、如斯諸工場に使雇せらるゝ職工の數年々増加し、明治二十七年以降三十年に至り特に著しく増加せり。

◎女工の多數なる工場

女工は如何なる工場に多數を占むるか、左表によりて其一斑を知るへし。

	明治二十七年 男工		明治二十八年 男	女
製茶	三八三	一、二八四	四八四	一、一〇五
刻昆布	五二	一四五	四六	六二
●ラム子	一四	三四	一一	二六
●烟草	二、一二二	七、〇四〇	二、三五七	二、八三四
●製綿	五〇五	一、二二四	四五一	八〇八
●絹糸紡績	三九〇	一、七三七	四三三	一、五八五
●綿糸紡績	九、九六八	三三、六九五	一一、〇〇六	三五、五九二
●生糸	一〇、四七一	一〇七、一五三	一〇、四九八	一〇九、八一五
●縮緬	二六八	七六二	八八	四〇三
●羽二重	一六一	二、二五五	三〇四	三、四二三
●絹織物	一、四七四	五、八一八	八三一	二、七二二
●綿織物	八三一	一三、七三六	六六一	七、六三二
●毛織物	四〇二	九一四	六一五	一、〇〇二
●麻織物	五五五	八八三	七三一	一、一六四
●綿子ル	三八三	三、〇二三	五四四	三、一七九
段通	二、二六〇	六、八二一	八〇三	一、八五三
手掛	九	六一三	一八	九五二
◉撚絲			一九七	一、二〇六
●絹綿織物	五六一	五、七八七	一、〇九五	七、四五二

●紙類	四〇	八三	四四	一一六
●莚席	二、五六八	三、九一六	五、五一二	七、八六五
扇團扇	三七六	四一二		
麥稈眞田	三四一	六四四	八一八	三、一五九
簾	六三	一八六	一一三	二四九
●摺附木	八、一七七	一九、九八〇	八、四〇六	一、七五一九

●印は蒸氣水力其他原動力を用ゐるもの也

右は全國諸工場を總覧して、女工の多數なるもの丶みを撰摘したり。之に由りて女工は如何なる工業に從事するもの多きやを察知するを得べし。

◎男工の多數なる工場

女工に比して男工の多數なる工業の一斑を擧ぐれば大概左の種類の工場なりとす。

染物、布晒、裁縫、鑛業、製煉、銅眞鍮線、活版印刷、製革、靴、製蠟、石油、油類、ランプ附屬品、提燈、金屬器、鑄物、度量衡、時計、陶滋器、漆器、玻璃、電燈、蒸氣機械、諸機械、造船、酒樽、紡績用木管、諸車、木挽、セメント、硫黄、石炭、肥料、コーク、酒類、醬油、食塩、製薬、染料、製氷、菓子、酢、味淋、金庫

是等の工場には、男工多くして女工少なく。中にも女工の極めて少なきは、酢、製氷、菓子、銅、眞鍮、靴、酒樽、諸車、硫黄、金庫、漆器、蒸氣機械、造船等の工場なり。之を概論すれば、身躰勞力を要すると過激なる場所には男子多く、纎巧細緻を要する所には女子多し。蓋し自然の配劑と云ふべし。

然れども婦女勞働者が漸次に男子の從事する職業に侵入移轉しつゝあるは明かなる事なり。獨逸、英吉利、米國、等に於ても益々此傾向あるは、吾人の嘗て報ぜし所なり。本邦婦人も亦此勢ひに洩るべきに非ざるべし。

◎全國綿絲紡績場の職工人員類

女工の最も多きは、綿絲紡績なる事は前出の表によりて知るべし、今全國の職工數をも擧ぐれば左の如し

年次	男工	女工	合計
明治十九年	七〇六	一、一七一	一、八七七
明治二十年	九三〇	一、四〇〇	二、三三〇
明治二十一年	一、二〇四	二、四九九	三、四〇三
明治二十二年	二、五三九	五、一九一	七、九三〇
明治二十三年	四、〇八九	一〇八、三三〇	一四、四一九
明治二十四年	五、〇五一	一四、二一六	一九、二六七
明治二十五年	六、三五四	一八、八七八	二五、二三二
明治二十六年	六、一六四	一九、二八四	二五、四四八
明治二十七年	八、一二九	二六、九二四	三五、〇五三
明治二十八年	九、四六七	三〇、四四六	三九、九一三
明治二十九年	一〇、七〇九	三三、九八三	四四、六九二
明治三十年	一二、九六八	四三、一四七	五六、一四五

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

備考　右十九年より二十六年に至る迄は貨幣制調査會報は二十七年以下は綿絲紡績聯合會の調査に係る

是によりて見れば何れも年毎に莫大の増加ありと雖も、就中女工は明治二十四年以降、男工に比して三倍餘に増進し明治卅年に至ては、正に四倍に上りたる有樣なり。

斯の如く、昨年の全國綿絲紡績業に於て、四万三千百四十七人の女工あり、此外幾百の工場に於て雇用さるゝものを總計せば、惟ふに其數三十万餘に上る者あらん。

明治十九年と明治三十年とを比較すれば十年間に四万二千餘人の女工を増加したり。今後常に此割合を以て進む事なしとするも、其年々増加するを見れば蓋し十年後の形況驚くべきの多數となるならん。

つくづくとむなしき空をながめつゝ
入相のかれにぬるゝ袖かな　寂然

うもれ木の下はくつれどいにしへの
花の心はわすれざりけり　匡房

評論

機先論

如雲散士

達人能く勢を識り、俊傑能く機を察す、機に先んじて時務を理處するもの初めて同に人生を談ずべき哉。

蓋し、勢は通ずるが故に起る。通ぜずんば、勢となることなし。此を以て、勢を識るは亦た通を要す、達人の能く之を識る所以のものは、無知にして博大なればなり。智人、智なきにあらず、只だ拘泥する所ある時は則ち通ぜざることあり。通ぜずんば智なきと何ぞ擇ばん。是れ智者の往々、勢を識ること能はざる所以なり。かの才人や俊爽敏活、妙に圓轉して融合自在なり、而も一旦、私する所あれば則ち眩す、強て我益を營まんとする所のものあるが故に通ぜざる也。通ぜずんば既に才にあらず、才なきと何ぞ擇ばんや。嗚呼、勢を識る豈に智者ならんや、豈に才人ならんや、無私公明、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

卓然として超立するものあり、能く俗圏利害の外に脱出するをもて初めて達識あるのみ、斯の如くして達識あらば、勢の流轉は自からにして映ず、素より强ひて之を觀ぜんとするにはあらざる也。鏡花水月の姿は、縛して之を束ねたるの故に往來せず。本來の無一物、豈に他の万有を谷容せざる理あらんや。

夫れ、勢を識るものは、亦た機を察し易し。機は、勢の關鎖なれば也。勢一走す、所々に機あり。勢によりて其の方向を察す、機によりて其の轉化を看る、機を看ざれば則ち勢の死活退進を辨ぜず、勢を察せざれば則はち機の長短大小を覺らず。上士、素より其の兩々相關の秘義を知ると切ならんとす。

翻つて念ずるに、蒼生の心如何に可憐なる。醉生して夢死し、大抵凝滯なし、渴しては水を飲み、餓ゑては食を喫ひ、婚しては花の宴に浮かれ、赤兒を得ては其の愛に餘念なく、一朝命露の散るものあれば、更めて敢果なきとに飲泣す。何人ぞ其の無邪氣なるや。彼等は自づから望を前途に懸け、只だ信じて光明を仰ぎ、樂天悅喜して好景氣を祝す、彼等本來、春の長閑けきに欣舞せんとするもの也。釋尊曰く、一切の衆生吾が子と。蓋し、達人の彼等を見る正に是れ可憐の愛兒たらんとする耳。何ぞ徒らに叱責し、何ぞ嚴かに鞭撻し、其の分不相應の先見戒心なきの故をもて之を罵るに堪へんや。彼等が迷ひ易きは、其分なり。但だ迷はざるの人の少なきを遺憾とす。否な、迷はざる人の少なきを、遺憾とするにあらず、迷はざる人士の自から責ると足らざるを遺憾とす。夫れ何の世か、先覺なからん。先覺の任ぜざる則はち不可なり。何ぞ酷だしく彼の後覺を責めんとするや。

嗚呼、信じ易く、望み易き、朴たる彼の蒼生は、當に先覺の善導を待つべきもの也。彼等何んぞ故らに失望疑惑せんや、但だ好景氣を慕ひて前途の祝福を待つもの也。左らば、先見して行路の障礙を取除き、効なき空望を善轉せしめ、實益ある堅確の希望を前途に掛けて、彼等をして步々平安道に健行せしむるは、豈に世の先覺の任とする所にあらずや。古人此を以て曰く、人心をして倦まざらしむ、機先を制して民心の萎靡を防ぐと。則はち這般の消息を喝破す。

夫れ、勢の進む常に休まざるが故に、機の起る亦た止むとな

し。もし一と度び、機先を制するとを誤まる時は、機後の機先あるべし、機豈に絶滅せんや。禍を轉じて福となし、逆境を活用して順風を捲き起さんと力めなば、人生終に絶望投手の日あるとなし。人生は乃はち活世界なれば也。

維新以後三十年。俊傑初めの十年に早世して、惰力、中の十年に持續し、最後の十年や只だ固息因循の文飾に沈淪せり。今や、人心大に喪敗し、氣慨一向に老衰せり、正に是れ薩長政治の末路にして、明らかに、前十年の結果たるのみ。何ぞ必らずしも不審とせん。

然りと雖ども、他を責めて其罪を嫁せんとするは、遂に自己の力量なきを表白するに等し。天下は天下の天下にして、爲政者の天下にあらず。もし方今の悪結果を以て單に在朝爲政の人の過に由るとせば、是れ餘りに彼の地歩を高くして、我の地位を餘りに低くしたる也。薩長氏大いに翩翻たるの間、我等は只だ畏縮せし乎。高天大土未だ嘗て束縛せざりき。爲すと能はざりしとせば、乃はち我の力量の足らざりしが爲めのみ。何んぞ他を責むるとを爲して、而して躬ら免れんとするの愚を學ぶや。嗚呼、論士、偏へに、罪を他に嫁せんとするは醜くし。

看よ、國家は亡ぶるものにあらず。亡びざるが故に之を憂ふ。其の奴隷たらんとすれば也。大人あるの國は起り、大人なきの國は衰ふ、是れ天の明道にして、地の嚴則たり。何ぞ無益に愁歎するとを爲さん。嗚呼、我が大日本、安くんぞ無名の俊傑なからんや。

老子曰く、大音は聲稀なり、大方は隅なしと。惟ふに、皇天后土の邦、必らずや、寂として獨り思ひ、端として自から整へ、優に經營して、早く機先の機を決せんとするの達人あらんか。竊かに慮はかるに、神州の地、此の聖爽美妙の上士なきとあらずと、常に之を信じて之を樂しむ。

惟ふに、立功は功の善なるものにあらず、功は其名なきに至りて初めて佳し。若し能く機先を決して、事前に其の功を爲し了へなば、万衆何の眼力ありてか其の形跡を覽んや。大功は名なく、大醫は病を治せず、速かに先見して夙に之を理處するは豈に大慈大悲の故にあらずや。

評に曰く、相撲取りは、引く息、吐く息の呼吸を測つて起上る。機先の制、此の一呼吸にあり。然るに横綱大關たら

んほどのものは、たとひ不幸にして先づ先手を差さるるとも、先の次には、後の先なるものあり、優によく機先の制を挽回す。

又曰く、近日魯士亞の朝鮮に對する、何ぞ夫れ巧妙なるや。一朝强剛の掛合に曰く、近來韓國政府兎角に魯士亞を疎外す、これ魯國の保助を必要とせざるの意か、若干時間內直ちに返答せよと。嚴厲峻酷、斷岸絶壁の觀あり。時に韓國政府、別に英米の後援を期し、意外にも强硬の答辨を與へ、斷然將來の保助を辭せり。魯國は誤まつて機先の制を奪はれたる也。然るに彼は翻然として曰く、然るが如きは是れ韓國政府の爲め大快事なり、魯士亞皇帝は祝賀して、其訓練隊長と、守備兵とを即刻に引上げしむべしと。一電即發、忽如として石火の如し、輕快爽然、何等の俊敏ぞや。渠は優に後の先を制し得たり。此の最後の潔き引上げ方は將來長久に魯を敬慕する意想を朝鮮人民の頭腦中に印刻したり。今後、事あらん時、先づ第一に念頭に念ひ起すべきは則はち魯士亞の俠助なるべし。彼は將來永遠の制裁を輸し得たり。渠は遂に勝てり。

又曰く、たとひ人心の波瀾に先だちて機先の制裁を施し、甘く先んじて人氣引立の手段を運らすとも、其の手段たる一朝の作爲製造に出で、久しからずして、益もなき空望たりしとを覺らしむるやうにては、人氣の萎靡一層に太甚しかるべし。則はち、無理に維持したる無理の付景氣は、更に一段の不景氣を釀すとあるべし。此を以て、不人氣の救助、もしくは挽回は、後日効驗ありて漸次眞實に人氣を引立て來るべき正味の實功あのものならざる可からず。然らずんば、一朝の姑息策は寧ろ反つて大害を生ぜん、之を喩へなば、不換紙幣の發行に似たり。救助せんとして發する一時の融通は、其の融通の多きに隨つて彌よ多く後害を遺すなり。

曰く、政治の要は大躰に通じて大綱を提ぐるにありとは之が爲めの主意なり。爲政の大局に當るもの、若し能く國歩に先だちて機先の手腕を施し、妙に人心鼓舞の刺激を遺しつゝ先んじなば、千百の小紀隨つて擧り、國民自治自營して、人心必らずや萎靡するとなけん。故に、政治は大躰の引率と機先の制裁とを主要とす。もし此の大綱に於て

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

誤る所なくば、たとひ小紀に於て一二の過誤あるとも不可なし、時としては反つて愛嬌ともなるべし。之に反して若し大躰に於て誤まる所あらば、たとひ小紀に於て周密繁縟の巧妙ありとも何等の効なく、反つて人心をして彌よ厭倦せしめん。眼前歴々として殷鑑あり。

曰く、明治維新以后二三年は維新當初の理想によりて活動せり。やゝ衰ふるに及んで西郷氏再たび起ち、廢藩置縣の斷行あり、機一轉せり、之を明治四年とす。六年に及びて廟閣破裂す、一は薩南に退き、他は海南に叫び、其他は少しく佐賀と山口とに破れたり。之より十年に至る迄は、政府改造と民選議院論との二大輿論あり、隨つて幾多の改良論ありき、これ當年の理想なり。明治十年、西南の一戰によりて機一大變す、十一年大久保甲東の死するに及んで、彌よ民權論暢發し、國會開設請願の聲囂々たり、明治十四年に至る迄は、單に其の叫びを聞く、之を當年の理想となす。十四年に至りて、十年以后國會開設の豫約あり、時に戰後財政の紊亂を受けて民間大に不景氣に難みたれども、倘ほ國會の開設を約束の地の如く佇望し、衆皆な意を強くして待てり、之を當年の理想とす。廿三年に及んで國會果して開けたれども、爾來衆望に副はず、幾度か其の調合改正に志ざして而も効なく、不平不滿漸く鬱積して將に破裂せんとせしが、時に倘ほ理想はありき。偶ま二十七八年の役ありて人心暫らく一轉し、戰後空大の希望を掛けて人氣暫時激昂せしが、俄然沈落して喪心一層に切なり。斯の如くして、經濟上の餘弊亦到り、四海一同に困苦す。困苦は倘ほ可なり、今の憂は即はち万人大抵理想なきを患ひとす。理想なきは、希望なき也、希望なきは、熱情無き也。之を奈何ぞ人心冷却萎靡せざらんや。抑も、理想は如何にして之を得べき。自己よりして之を言えば、衰へざるの致す所、たゞ無私、たゞ博愛、乃はち常に理想を生ぜん。他よりして之を言はば、先覺ありて歩々機先の警醒を起し、巧みに希望を繋ぐの豫言を示して以て衆生を誘啓するによりて、万衆乃はち理想あるとを得る也。方今の大患は、抑も何の處にある。識者一考を煩はして、當に則はち可なるべし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

迫害せよ然らざれば勝負せよ

意志教育の必要を論ずるものは、其の論を貫かんことを專一とせざる可らず。これ即ち意志教育なれば也。今の教育に精神的感化の欠乏を憂慮するものは、精神的感化の施布を希望せざる可らず。而して、宗教的教育を見るに及んで、忽ち澁面苦慍するは何の痴態ぞ。

凡そ人事に弊なきはなし。宗教亦た人の事にして大抵迷信を混ず。其の精髓に徹底せずして、形式に拘泥するもの、甚だ多し、之れ免れざるの數なり。然りと雖ども、形式に拘泥するもの、豈に只だ宗教の事のみならん。拘泥と自在とは、人の品格によりて決す、事によりて定まるにはあらざる也。宗教に拘泥するの人は、學問にも拘泥すべし。拘泥何ぞ恐るるに足らん、只だ人品の高からざるを憂ふ。左れど、人品の高からざるは急に高くすること能はじ、其の分に應じて暫らく應與するの外なし。何んぞ只だ宗教の事のみに於て俄かに其の足らざるを恐れんや。

蓋し、宗教的感化に於て多とする所は、其の信を養ひ、精神を一徹にし、意思を强固にするの所にあり。今の宗教學校の結果を見て、其の多數の軟骨なるが故に此言を疑ふと言ふこと莫れ。其の軟骨すら既に莫大の感化を蒙むりし也。日本士人の氣骨たりし武士、俠士にして、ふと基督教に反動し、其の感化の圏内に入らざりしもの多かりしが故に、今や則はち基督教に斯の如き感化力ありと云ふことを容易に承認することなし。然れども、基督教と佛教と儒教と道教との何れたるを問はず、大凡そ、宗教なるものに斯の如き感化力あることを非認せんとするは公平の觀察にあらず。論士もし暫らくの反動を止めて、靜思一番せば、忽ちにして吾人が此の言を默認すべし。

左れば、宗教々育の餘弊を論じて、其の矯正を講ぜんとするは則はち可し。抑も、宗教其ものの感化を絶待に非認して、惣べて一概に之を教育制度の外に擯斥せんとするに至ては、何等公明正大の理由あるに由る乎。惟ふに、其の宗教を

一概に擯斥するは、基督教を恐るゝの故なり。基督教を何の故に恐るゝかと言はんに、外國趣味、外國崇拜の氣習の行はれんとするを恐るゝ也。嗚呼、日本人民の國家的束帶は斯の如く薄弱なりや。論士の自から輕んずるも亦た太だしい哉。

凡そ國家自活の調和力は、紙上の論士の杞憂する如きものにあらず。況んや、雄大なる國民の猛志は、斯の如く淺狹劣隘なるを恥づ。基督敎的感化の餘弊に恐れて、政府の威權をもて之が特權を奪ひ、公共的不便の防害を用ゐて、辛うじて其の發達をくひ止めんとす、何等陋劣の手段ぞ。たとひ八擒八縱の勇なしとも、齊しく武具を與へて、對等に競はしめ、以て其の刺激を活用せんとするは、大國民の猛志に非ずや。たとひ、基督教の餘弊恐るべしとなすも、今の論士及び官人の如くにして之を防がんとするは、頗ぶる吾が國民の爲に之を恥づべし。抑も宗敎の勢力は、其の迫害ある時に發達す。宗教の傳道をして熾烈ならしむるの一方は、政府の迫害にあり。近時の反對者あまりに其の迫害の生ぬるきによりて基督教漸く腐敗せり。吾人の如き豈に基督教界の爲に更に寬待を求むるものならんや。たゞ堂々たる論士官人の如何にも卑劣にして、日本武士の態度を重んぜず、一樣日本人たるの識見の爲に深く之を恥づると云ふのみ。

雜居後の準備

最に内地雜居準備の研究會あり。近ごろは別に隆んなる計畫を施して廣ろく會員を募集する同樣の研究會もあり。惟ふに之よりして同類の趣構を見ること少なからざるべし。多分は來年より彌よ雜居實施となるべき今日に方りて初めて此の研究あるなど、ちと笑ふべきに似たれど、抑も如何なることを研究せんとするやを測度するに及んで、更に一段の可笑味あり。

蓋し日本は如何ほどの富源を有し、天下の人の如何ほどに垂涎しつゝありと思ふことにや、ちと不審かしき心地す。もとより未採掘の礦物、未開拓の原野、未採收の漁利は尙ほ多くあるに似たれど、之を對岸支那國に於けるものに比べては、殆ど同日の談にあらず。海外何ほどの金傑と、何ほどの物ず

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

きとあるかは知らねど、來年雜居の期を待ち搆へて、潮の押寄する如くに寄せ來らんとは思惟しがたし。西洋人は左程に計算に暗きものにはあらざるべし。來年より來るべきものが、今年は尙ほ辛捧して、ちとも其足を此土に入れざるほどの愼しみ深きものにあらざるべし。今の居留地内外の外國人が、今よりも自由に內地に周行することとなるの外、左して雜居後の變化とてはあるまじきと思はるれど、世上の大方諸君は其の御意見にてなきことと見えたり。

此時に際して、雜居後の準備とは何事の爲にするとにや。茶店に椅子を置き、役所にテーブルを增し、牢屋に腰掛を供ふるなどの準備は無かる可らず。宿屋にガイドを雇ふ所は少しは增すべし。名所の案內記に外國語の出版物を見るべし。相の子は多少增加すべし。西洋人の別莊の近所に西洋野菜の新作を見るほどの事はあるべし。其外にさしあたりて何程の變化あるべしやと思考するに、到底吾人短見者の想像し得る所にあらず。

就中、雜居後の敎育制度に關して苦慮する族も亦た少なからざる如し。其の苦慮する點は宗敎の事にありと云ふ。而して、

其の宗敎の事を苦慮する人士は大抵一定の宗敎觀なき人たるも亦た奇觀なり。其人未だ一定の宗敎觀なきほどなれば、宗敎は何れにても宜しと思ふ筈にて、今に至りて更めて掛念するにも及ぶまじき譯なるが、然し乍ら又何事かに驚ろかんとすることのある者にや、一種の疑問と云ふべし。從來、居留地內に、設けたる宗敎學校、もしくは宗敎家が設立せる宗敎的學校の數も少なしとせず。夫等に對して從來何の準備も無りしものを、今にして初めて大いに其準備を講ぜんとするは、雜居後に於て、此の種の學校と、其の感化力との大いに增加すべしと想像するによりて、更めて此の杞憂あるものか。左らば卽はち告げん、斯る學校の數は別段大いに增加もすまじく、其感化も左して進步すまじ。西洋人の今後に雜居するものは、寧しろ日本語を學び、日本の風習に倣はんとすべし、之れ、利益なれば也。左れば、從來、彼等が居留地に籠城して、直接、日本內地に近づかざりしの事故に投じて一種中間の利益を得つつありし相の子的日本人の感化力は、將來に於て反つて減却すべし、決して增加するものにあらず。故に、一派の論士、宗敎學校の根本の性質に就きて杞憂するとせば

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

既に從來に於て夙く其の準備はあるべき筈なりしが、今にして更めて大に驚ろかんとする理由の、將來かゝる學校の俄かに增加せんことを掛念しての故と分明せば、吾人は茲に斷言して其の杞憂を散ぜん、「此種の學校は左程增加せず」と。之にて其心配は最早や休み、準備の苦勞も無用となるべき譯なるべし。

既に死せしことと思ひつる羅馬字會も亦た再興の企ありと聞く。之も亦た雜居準備の一つなるべし。英語の流行頗に進步せり。之は準備の中の有効なるもの也。其のツブシ價の高ければ也。

不思議なるは、世上の景況、斯の如く雜居を氣構へつゝあるに際して、基督教徒は、反つて彌よ外國人に遠ざかり、寧ろ彌よ在來の古習に混淆せんとす。一進一退の狀、潮の去來に似たり。世は眞とに面白きものにてある哉。

同志社問題

西京同志社の問題は、近時の大疑題となれり。一部士人の激昂は餘程の高度なりと謂ふ。蓋し盛んに運動中なるべし。遠からず、其の結局を聞くことを得んか。

同志社に不易の憲法なるものあり、而して、社員は之を變更せりと言ふ。其の憲法は、同志社に通じて用ゐらるべきものなり、而して、同志社中の學校に之を適用せざる所を生ぜりと云ふ。常識をもつて之を聞けば、頗ぶる不可思議の理由たり。同志社員たるもの一辯論なかる可らず。

但し、同志社は一の私社なり。其の今日あるは、亞米利加傳道會社の投資巨多なるによる。同傳道會社員の言ふ所によれば、投資二百万弗（四百万圓）と言ふ。此の四百万圓の投資の結果として、今ま十九万圓の校資あり。私立學校中優等の地を占むるものと見做さるゝは即はち之が爲めなれども、抑も從來、日本人の助力は左程多くもあらざりしが如し、況んや、社員及び校友以外の人の助力に於てをや。要は、一傳道會社の事業の遺物、一と紛紜を生じたる事后の未定の殘品なり。卒業生等の熱心は固より其分なりと雖ども、一般世人の餘りに之を重視するを分外とす。同志社の今日あるは、先日の結果なり。今は即はち去歳の紛紜の餘波を整理しつゝ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

あるものと見做し、少しく輕んじて可なり。

宗教學校問題

同志社の事は一私社の事なり、暫らく其のお家騷動に任せ、當分は鎭まるを待つべし。敢て故らに世話を燒くべきほどのものにあらず。然れども、文部省が、何故に、宗教に關係ある學校には公認を與へざるかの理由に至つては、公宏なる議題なり。其の學科、其基礎、既に公認を與ふべき品格あるも、只だバイブルを講ずるの故に公認を與へずと言ふ。抑も何等の狹隘ぞや。バイブルの可否は暫らく置くも、文部省たるものは、斯の如き事件をすら管理すべき能力あるものとすべき乎。これ敎育制度上の一大問題たり。維新開國の大精神に關するものたり。志士何すれぞ此の大議論を避けて、他の一私社の是非をのみ講ぜんとするや。

嗚呼、敎育界の振はざる他の故にあらず。敎育者たるもの自から任ぜず只だ文部省に待たんとす。文部省に待つなきもの何ぞ其の改悔をすら待たんや。但だ生平文部省に待つある者、此等の議題に於ては一論を試みて可也。

放言問答

來りて問ふものあり、西洋人之より多く來らんかと。答へて曰く、來るべし、所謂る食ひ詰め者多く來るべし。問ふ人の曰く、紳士巨商は如何と。答へて曰く、巨商の來るべき筈なし、我國の物產の薄少なれば也。紳士の永住すべき筈もなし、何の面白きとかある。但だ、支那の爲にする巨商は或ひは此土に別莊を構へんか。觀風遊山の外國人は彌よ其の數を增すべきかと。問ふ人の曰く、宣敎師は如何と。答へて曰く、宣敎師は之より支那に向はんとす、支那は之より宣敎師大繁昌の國となるらん、日本に對する宣敎師の好尙は既に一轉し去れりと。問ふ人の曰く、左らば、宣敎師派學校は如何と。答へて曰く、大抵は維持せらるべく、相應に繁昌もすべし。相の子を敎育するものなかる可らず、西洋人と日本人との間に立つべき相の子的日本人を敎育するものなかる可らず、外國語の流行に應ずるものなかる可らず、此等の需要に對して宣敎師派學校は優に繁昌すべしと。記して大方に問ふ。此の問答尙ほ一笑の價値ありやと。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

随感

小き兒のひとりたび

故もなきに、ふと想ひ起し、もしや吾が兒が世を去るとなどあらんにはと心驚かれ、潸然として獨り泣き、胸の痛くなるともあり、事彌よ實際となりなんには、此上の苦痛を如何して耐へんやと思ひ切まるとの數ばなり。然るに今ま遂に其實際にあひ玉へる人の御心こそ、如何に苦しうは感じ玉ひけめ、慰めまつらんとするに辭はなし、只管ら同に泣かんとするのみ。夫れ人の齡に長きと思ふはなし、たとひ百年の壽を得るとも尙ほあき足らぬものを、十にもならせ玉はで早くかくれゆき。たまへるこそ恨めしけれ。抑も、人の父となり母となりては、たゞ其子の爲にこそ生くるが如けれ、何等の寶を山の如く積むとも、子を失ひし歎きをつくらふ術のあるべきや。淺々しき人の慰めは淫辭に似たり、力なき說法は無禮の心地す。ひとり默して皇天皇土に衷情を訴ふ。恨むにあらず、責むるにあらず、別に言ひがたきの情あり。此般の秘曲、誰に向ひて悉さん。然し乍ら、われは又兼てより期して思へり、吾が慈しみ足らぬ心にすら斯く迄に思ひ切まらんとするものを、尊とき慈愛の天父の知し召す限り、其の前途を顧みず、其進路を導びかず、ひとり暗路に迷わせて、さびしき歩みに苦しませんとせらるべきやは。貧且つ乏しき我家の内に、欠多き我傍に生育し、覺束なく人の道を歩ませんとするに比べては、天父の御誘ひを蒙むりて、其御導きに從はしめんこと、幾層の欣喜なるべき。幸ひにして我と仝にあるとを許させ玉ふ限り、之を珍重とせん。もし御命旦夕に下りて、之を招き玉ふとあらば、其時こそ斯くは期すべけれと思ひ乍ら、扨てとや淚もろきは人の癖なるべし。世には双親の恙なくて、限りなく慈しむもあるを、我には將た其の幸福もなし。長壽せしめんが好きか、左なきが良きか、如何にして判たん。たゞ、天意のある所をもて最も善しと認ためん耳。然し乍ら、片親の子の此世に福うすきは、後の世の福ならずや。天父之を護らせ玉ふ上に、更に之を待つの親あり、相見て幾何の滿悅ぞやと。あやしき想像も切なる信念より

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

發すれは、之を無二の誠となす。我は之を信じて慰めんと、今より固く期すれど、扨て其場にあたりての安心は如何あるべき。現に其地に立たせ玉ふ人に問はんとする耳。一鳥空しく飛ばず、還るに巣あり。半夜久しく暗からず、曉鐘近し。人間心中消しがたきの希望あり、希望豈に徒爾ならんや。親愛斷絶に堪へず、耐へざるものゝ人生万年に存すべきや。われ深く上帝の慈愛を信ずるが故に、ひとり只だ之に似たる吾が親心の空しからざるを信ず。われ〳〵天父を忘れがたし、吾子、遂に我を忘れんや。

○微笑して樂しむ

狂へると狂はざると、何をもて分たん。愚かなると、賢きと、如何程の懸隔ぞや。聖のひとり尊きにもあらず、之を敬はんずる人も亦た尊からずや。今人數ば白痴の事を論つらふ、されは遂に白痴の愚かしき狀態を認めず。斯すれば斯なるものと知つゝも、到底、免かるゝを得ず。行末の悲しき事を察せざるにあらねど、暫し笑ひぞよめくは、人間の常態とす。亦た是れ白痴にあらずして何ぞ。試みに、仔細に觀じ來らば、罪人の罪を知らず、聖者の聖を知らず、夫れ何をもつて誇り何をもつて擯けんとはするや。四時は言ふとなく、救主は責め玉ふとなし。人間ひとり何の權威ありて他を裁判かんとはするぞ。若し博く觀ずる時は、山川國土も情なしとせず、十方の草木倘ほ佛性ありと言ふものは、眞に達人の感なり。かのざわ〳〵しき論議畢竟何するものぞ、魚躍りて水面に喩喁す、むしろ可憐にあらずや。樹陰に其の背を撫でて泣然として抱き、岩下に腰かけて其の氣骨を愛す。淺々しき輕薄の人の腸なきと必らずしも優劣なし。虫、はふものに哀れを寄せ、王者の金冠に土足をかけ、やさしき乙女の涙に熱鐵を消てひとりつく〳〵と世の相を考ふ。人は之を輕んずべし、亦た之を重んずべし。万物は人と分つべし、亦た之を一つにすべし。其邊言ひがたき微妙の關りを覺りて、恍惚として念へば、胸頭微笑あり、一身胖かにして宏ろし、眼中つねに涙やまず、口大抵は默せんとを欲す。悠々として天地大なる哉。渺乎として我や小なる哉。

夢破三更枕、列星澗襟沈。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

雜録

情死の哀を想ふ（上）

花影子

天地の靈は愛なるか、何ぞそれなつかしきや。花のかなるところ、月のにほふところ、何處か愛の溢れざる、大空の色濃かなる、白露の玉圓かなる、悉く愛の滴るを感ぜしむ。人は天地の間に生れて元より此靈の子なれば、その一世を貫いて愛の溢るゝもまた宜なり。生れて父母を慕ひ、漸く長すれば兄弟姉妹互に相愛し、一世の春花まさに開かんとするや、一轉して奇しく妙なる兩性の情となり、又轉じて父母の愛ともなり、廣く人類に對する仁愛となる。若是をして埃田の園に育たしめば、何人か盡く天使とならざらんや。されど一度かの園をさまよひ出しより以來また昔日の幸福に還り難し、然も此靈常に人に發現して人情となり、暗雲晦霧の裡なほ一點の靈火と輝きて、其出し所の理想に導く。愛は天地の眞、終極の善、最高の美なり。眞善美の一致融合する處、即ち終極の理想なり。故に愛は人性の自然にして、心靈界の美妙といふも不可なきなり。古來大畫工が畢生の身血を濺ぎて作爲せし最高の美は、皆此理想の發現、即ち神性と人情との一致する處にありしなり。基督といひ、マリヤといひ、彌陀といひ、觀音といふ、是れを美術上より見れば皆是に外ならず。大詩人が歌ふ處も又是にあるなり。されば兩性の間に發現する戀愛の又理想的にして、美妙なるは元より然るべき事にして、若是を順境に置きて、淸く直く發育せしむるを得ば、誠に人世の美花を開きて、埃田（エデン）の餘香を洩すべしといへども、不幸にして若し是を逆境に在らしめば、其結果實にいふに忍びざる者あらむ。此世は理想と現實との戰爭場にして、私慾と佯僞の大渦流其中に旋轉す。故に利害に敏なる者は、能く此間に處して一身を全うし。現世の幸福を收護すると雖ども單純無垢にして理想にのみ思を馳する者は、往々其深淵に卷込まれて幸福を剝奪せらるゝのみならず、其理想をも失ひて心靈の美をさへ全く汚さるゝに至る。されば教育(Culture)と偕はざる戀愛の末路、常に悲慘なるも其故ありとは云へ、人世の悲劇何者か是に過んや。

春なほ淺く將に綻びんとする花の顏に紅を漲して、能くも見ざりし郎の俤なつかしく、人知れぬ思に胸を惱すや、其慕ふ處元より郎の學藝にあらず、名譽にあらず、亦財産にもあらず。唯其人戀しく然も何故にこひしきやを知らず、何處を取出て慕ふにもあらず、陶然として殆ど醉へるが如きなり。されば若郎にして同じ心ならんか、彼等は恰も双蝶春にゑひて花園に夢むが如く、見る處花にあらざるはなく、聞く處婉囀たる鶯聲にあらざるなし。春の光の柔かなる、水の調の長閑なる、萬物悉く彼等の樂を助くるが如く、殆ど人生に苦痛なる者あるを覺えざるなり。共に菫の床に身を投じて横はれば、軟風暖く肌膚を撫て草花また互に接吻するに似たり。斯くの如くにして往くを得ず、此世は誠に埃田の昔に返るべきも是唯青春の一夢に過ずして、いつしか花散り香去て、空しく往日の樂を惜むに至らん。靑年の戀は常に理想的（寧ろ空想的）なり、彼等は互に其情人の周圍に〔ハロ〕を作て完全ならしめ、互に自己の理想を愛して夢幻裡に遊べり。彼等は互に愛するといはんよりは、寧ろ戀を戀すといはん方當れるならん。故に一朝比翼の鳥となりて人世の行路に翺いづるや、須臾にして互に不滿を感じ、郎は女の誠の足らざるを嘆き、女は郎の愛うすきを喞ち、曩に濃厚油の如くなりし情は、漸く變じて水よりも淡く、膠漆啻ならざりし契も、いつしか離れんとするに至る。是に至れば妹脊といふ唯名のみにして、初に求めし所多き程、今は却て失望する所多く失望すると多に從て、些細なる事にも互に反目嫉視せらる。此時に當りて若し僅にても外界の魔力此間に働かば、忽ち破裂を來して長く相別れんのみ。最も世人的なる抒情詩人に於ては、特に甚しきなり。透谷子が厭世詩人と女性と題して詳論せし所も、又戀愛の理想と現實の間に生ずる破裂を悲しみしなり。（婦人新報所載）我は透谷子の死因を以て、全く是にありしと爲す者にあらざれども、或は彼の厭世思想の由て起りし一因なるやも知る可ず。逆境に在ずとも戀愛は悲劇を演ずる要素を包むと斯の如くなれば、若し始より障害多き不自由の境界に在らしめば、其終極の如何に悲慘なるべきかは其の日を待ずして既に明らかなり。

人性の自然に二あり、一は即ち自愛の念、他は犠牲的の精神、又他愛の念と云ふべき者是なり。吾人が道徳上最高の理想となす者は、實に此二者の全く一致調和するにあり。是に達すれば人自我を忘れて、而も自から自我を全うす、救主が其生命を捨る者は却て是を得と曰給ひしは是なるべし。博士ドラモンド氏は、其著アスセントオブマンの内に、母子の情に現はれたる此自然の人性を説きて、他側面より人類の進化を論ぜられしと、吾人が實に道徳上重ずる所は此二性の調和否寧ろ現今に於ては他愛の一方を理想となすにあり。

されど理想は漸を追て達すべし、完全は一朝を期す可らず、然るに戀する者の常として、直に現在に於て理想を實現せんとす、いかにして失望せざるを得んや。春來らざれば花開かず、秋にあらざれば月も其美を極むる能ず、不完全なる現世に在りて、眞に理想の實現を期するは、恰も春ならざるに花の爛熳たるを願ひ、未だ秋ならざるに月色の全きを願ふが如く、啻に其事の無益なるのみならず、徒に不平と失望とを來すに過ぎざらんのみ。されど是必しも戀の罪にあらずして、不完全現世に於ては亦不已得ざるところなり。我は彼の一種の寫實派の如く、戀を以て全く肉感にありとなす者にあらざれども、又彼の一派の理想論者の如く、全く肉感を去りたる抽象的の者となす能ず。少くとも現世の戀は、肉感を離る事なしと思ふ。肉感を混ずるが故に戀は神聖にあらずと思は誤れり、是は豈ひとり戀のみならんや、若し是を以て聖からずといはゞ現世何者か又聖からんや。特に彼等理想論者が尊重する結婚は神聖ならざるのみならず、戀を墮落せしむる者といはざる可らず、我は戀の神聖なる所以を、其至誠なるにありと信ず。互に自己を忘れて其情人を思ひ、一身を捧げて省みざる實情にありと信ず。即ち我先に云ひし所の、人性中の神性の發現する所にありと思ふ者なり。利害をのみ打算する現世にありて、斯る心情は眞に尊むべき者にあらざるか。

戀は谷川の如く、水路若し岩多ければ益々激す、激して岩を砕く能はずんば、自ら砕けて深淵に落んのみ。世人或は彼の怨恨嫉妬の情に馳らせて、人を殺し家を燒く者あるが故に忽ち戀を離ずる者あれども、是れ元より戀其者の働きにあらずして、其反動と其人に屬せる他の欠點より生ずるなり、換言すれば其人の品性より出るなり。されば偶以て戀の力の驚くべきを示すのみにして、決して戀が人をして罪悪を犯さしめしといふを得ざるなり。人世は元複雜にして而して不完全なり。加ふるに我既に云ひし如く、現世に於けるものは少とも肉感を混じて純なる能はざれば、戀の此世に存するは恰も山間の樵徑に似たり、此方に曲り彼方に回り、或は日を見ざる林中を過ぎ或は岩出で石多き所もあるべし、未だ世路に馴れざる青年男女が幾度か此路に迷ひて、終に出る能ざる深谿に陷る者多きも又怪むに足らざるなり。

良家の子女始めて人の戀しきを知り、互に嬉しく恥しく春の雨、秋の風悉く思の種となるや、若し妨ぐる者なくば、元より事なくして終はるべきも、或は父母是を許さず、或は境遇の是を隔つるとありとせんか、互の思の深きほど其終極の悲惨や甚しからむ。今日の社會は古封建の世とは異りて多少上下貴賤の隔離を去りしとはいへ、今もなほ是等の隔ては往々戀の中垣となるを免れず。其他教育の有無貧富の隔絶等益々増進するの傾向ありて、悉く隔の離たらざるなし。故に子女の利害を熟考する父兄が、是等の事情に由りて、彼等の思を成就せしめざるも少からず、特に父母が自己の利害により、自己の愛憎によりて、彼等の戀を遂しめざること甚多し。加ふるに社會百般の事態は、たとひ父母の妨なき場合に於ても、往々彼等の情交を全うせしめざる也。然るに戀は堰るれば愈々深く、消さんとすれば益々燃えて、其極終に生命を捨てなほ其情を全うせんと欲するに至る。是に於てか情死なる者起らざるを得ず、嗚呼此障害多き世の中に何故人は戀せざるべからざるか。

數年前或新聞紙上に見し事あり、ある若き男女相愛し、其父母に請て樂しき行末を契りしに、新手枕の夢未だ淺きに、うたてくも父は其睦じきを嫉みて彼等の間を裂かんとし、是より家内風波絶えず、終に父は新婦を追ひいだして、其家に返らしむるに至れり。然るに彼は飽きも飽かれもせざるなかを裂れしとて、思は愈々深く、逢宵を待ちて、入相の鐘も樂しと指折る人の身の上羨しく、思しのぶの露こぼれて袖の乾くまもなければ、潜に人目の關を越えて逢ひ居りし夜の度重りて、いつしか父に知られ、忽ち越え難き隔を置れて僅に樂しみし折々の逢瀬も絶えければいかに此世のつれなく感じられけん、一夜程近き入間の流に二人の身を投じて、情無き浮世に空しき哀を殘しぬ。僅に是のみにて詳細なる事情知り難ければ、他にいかなる理由の存せしやも計り得ざれど、明に世俗にいふ法界悋氣といふ者なりしならん。彼の父なる人甚だ感情強くかつ利己の念深かりけん。さ

らでも我邦の悪弊として、子女を唯だ自己の所有物と視なし、兎角は私慾の供物とせんとし、若僅なりとも我意に逆へば、忽ち不幸の子なりと罵る者多し。されば彼の若き夫婦のあまりに親しく、樂しげに笑ひさゞめくを見てはたとひ我身につらくあたらぬとも、何となく彼等互の交に比して、我身に對する素振の冷なる心地し、夫婦が心なき一擧一動皆我身につらく、我身を侮るが如く思はれ、果は嫉しくもなりけん、かの女とへ在らずばなど思出されては寸時も堪へ難く、少しの事にも語を荒らげ、僅の過誤にさへ罵りちらせば、元來感じ易きは若き人の常とて、甚しき柔順の性にあらざれば、時には一言二言反言せしこともありしならんに、其度我子が自己に加擔せざるのみか、竊に其妻をいたはるなど一として不快に感ぜざるなく、遂には我許せし妻なるをも忘れて追出すに至りしならん。然るに父の憎惡は却て互に深き思ひやりをなさしめ、事毎に情濃になりゆかしむるは、かゝる夫婦の自然にして、若し靜なる月日を送らしめば、いつしか冷ゆべき交なりとも益々燃えつのりて胸の炎の消ゆる間なければ、別れて味氣なき世に在んより寧ろと思ふもおのづからなる事なるべし。されば此かなしむべき事の起原も舊き習慣と誤りたる教育とに養成せられし情意と、若き戀愛との衝突にして、皆不識の間に社會の不完全に翻弄せられたる者なるに、然も彼等は自から知らず、身の不運と諦め父の無慈悲とのみ悲みやしけん。入間の流千古絶えずして而もかゝる慘事を幾度か見つる。又嗚呼此末、長く人世の流と共に逝きて今の哀はうたかたの跡をも終に止めざるべし。

僅にかく記しをへしに、亦悲しき事を耳にしぬ。雖波の地に、世の常ならば運も子孫も末廣折りの目出度かるべきなりはひに、世を渡る男(歳も漸く折目の數を倍せぬ程)同じ町に住める若き者等が、戀にさいふらむ染屋の娘、齡も三五の月の桂の香こぼるゝ花のかんばせ麗しく、にほふ笑につきせぬ愛のしたゝるを掬みて優しき思を寄せしが、元より振分髮の昔より、兄妹も啻ならぬ仲なれば、小女も同じ思に胸を焦して待ち居しことて、互に生命もと誠と誠相結びて、解けぬ綵の糸は朝な夕なにつよくなりて、いつしか人目に立つ程になりぬ。今は寧ろと男の方より少女の父に打明けて、二人の契を許してと願へば、我家を續くべき一人娘に傷つけしとて非常の不與を以て謝絶せられぬ。さればとて男も同じ身の上他家に往くべき者ならねば、あはれ二人は此時より憂き身となりぬ。いかに思ふともかなひ難き二人の願ひ、さればとて此まゝにやまんとは生命ある限りいかでなし得ん、されば互に思慕りてしかも逢ひがたく、せめて隔の關なきは唯夢路のみなれば、夏の夜の明やすきを恨みしとも幾夜か積りては、終に堪へ難く、竊に家を脱出て或家の二階に住み、夫は己が職を勵み、妻は末だ肩揚の取れぬ雛嫁、人形をも捨てまじき年なるに、唯夫の爲と甲斐〴〵しき素炊洗ひ濯ぎより、衣を縫ふ針の運にも誠を込めて事ふれば、二人がなかは日々に深し、此世はいかにつれなくとも互の心だに變らずばと、夫の巣の目出度き行末を樂みて、互に慰めつゝ勵めば、世を渡るたつきには事も欠ず。今年の盆會には他へ贈る禮物も二人が相談より出るも嬉しく、墓參も手を携へての徒歩詣で、百年の後己が子供等に靈迎さるゝ時までも、契は決してかへじと思へば、何となくうらかなしと人のいふなる夕暮も樂しく、淋しといはるゝ盆燈籠の影に、對へる時に、妻が手製の料理も情こもりしと思へば一しほ甘き心地し、はや吹立し秋風も我身の外の思せしならんに、あゝ世は戀の神の配下に在らず、常世に老いぬ童が放つ黄金の箭は、徒に二人の胸を破る毒矢となりぬ。

小女の父は二人の家出を聞きて一度はいたく驚きしも、若き戀の醒めやすきと、且は世帶なれぬ彼等が早晩衣食に窮して、秋をも待たで心もかはりやせん、其時徐ろに說くこそよけれ、今急ぎて無分別を起さするは愚なりと、自らいしくも計ひしと考へつゝ、靜に傍觀せしに、男の働き娘の家計、よく一家を支へて餘ありかつ二人の戀は今の世のためしに漏れて、情は月日と共に積りて互の思川朝な夕なに深くなりゆき、末は堰きとめ難き樣なるに、今は捨おき兼て娘を强いて連れ歸り、種々に說き試むれど聞入るべき樣なければ、遂に一室に閉込て外出さへ許さぬに、二人の思は燃る蚊遣火の烟と立昇り、胸を閉す雲の絕間なく、降る村雨の靜なる夜半など、いかに物悲くやありけん。常には他にすぐれて勉めし男の、今はなりはひも手に附ず、唯物思に其日を暮せば、まして女の心ばいかにありけん。それと互におもひやるも又涙の種、盡せぬ者は獨り淀川の流のみかは。思はいよ〳〵積りて堪へがたき戀に、死なんと一人思定めしも戀しき人に今一度と女心の一すぢにおもひつめて、竊に家を逃れ、夫の許を訪へば、唯戀しさ嬉しさに袖のみ絞られて、胸にあまる詞は一言も口を出ず、夫の胸に顏押あて、握りし兩手に思を通はせし時、いつまでもかくてあらまほしと願ひしならんも、今夜のうち

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

にも父や追來らんと恐ろしく、夫を促して家を出ぬ。行く方はいづこ、此世が彼世へ越すにやすき堺の濱、渡り難き隔の瀬戸、ちぬの海の水は濁るとも盡るとなき二人の戀、然も世にて遂げがたき行末は何處にてもと、心亂れて、うたかたの憂身を波に任せて消えん事を願ひしも、水際に人の見るめしげく心ならずも亦さまよひて、いつしか來りしは難波へ續く鐵道のほとり、遠く聞ゆる響き光も二人を招く心地して、さらば此處に枕して來る世もと互に胸のひゞきの答ふる迄緊と抱きあひて、此世ならぬ夢心地に臥せし時、悲しかりしか、果たのしかりしか、今筆執る我は唯涙の落るを覺ゆるのみ。

娘が再度の家出に驚きて尋れ歩きし父は、あくる日になりて堺より入水するとの遺書に接し、蒼皇堺に赴けば意外、おもひしにも増る悲慘の様を見んとは。滊車に碎かれし二人の亡骸、あまりの事に父は爲す事をも知らず、かゝる無分別はすまじと、親心の愚にも思居りしとて唯泣きたりとぞ。悲むべし運命の所業常に戀の神と衝突する事、世の宗教家道德家は彼等の不義を難ずべし、嚴格なる父兄は子弟の善き誡とや見ん、又思慮ある青年男女は彼等の無分別を憫笑せん、然も我は是等の人々と異りて、二人の爲に同情の涙を禁ずる能ず。嗚呼人は何故に戀せざる可らざるか、何故此人を愛して彼人を厭はざる可らざるか、何故に末遂げ難き情人と嘗て相逢はざるべからざるか、是等の事だになくば、父兄の命ずる所、社會の許す所、境遇の强ふる所に滿足して、世は絕えて此悲慘の事を見ざるべきに、されど世は實に斯の如く不完全に、運命の手は常に斯の如く殘酷なり。我は再び玆にいはんと欲す、此世は到底優しき戀の花を咲しむる樂園にあらずと。イブの子孫はいつまでも毒蛇の欺く所、荊棘の壓する所となりて、又エデンの麗しき花園たる能はず、世は終に涙の谷たるを免れず。かゝる世の中に父兄が其子女の戀を妨ぐるも宜なり、殊に代々家を傳ふる我邦の家制に於ては、戸主たるべき者の戀に障害多きも怪むに足ず。されば己が獨娘を彼男に許さゞりし父の心も責め難く、さりとて幼き時より兄妹もたゞならぬ思に育ちし、二人の離れがたきも亦憎むべきにあらず。かゝる情交を裂く程無殘なる事は世に少かるべし、然も一家の事情是を許されば、唯無理に胸の火を消して冷灰の人となるか、亦は心ならずも思はぬ人と世を偕にして一世を涙のうちに送るか、然らざれば生命を戀の神に捧げて其祭壇の供物と身をなさんのみ。何れにしても人生の悲慘是に過ざるべし。

花の散る月の缺くるなほ惜む人多き世の中に、などてかかる悲劇の傍觀さるるとやらん、我は唯現社會の不完全なるを悲しむのみ。

我は既に少しく良家の子女が悲戀に付て記する所ありしが、今よりかの自由なるが如くにして、然も最も不自由なる狹斜の戀に關して思ふところを述んと欲す。たとひ浮氣の果なりとも、浮む瀨のなき濁江の底に沈み居る身は哀深き者なるに、ましてや親の爲家の爲に盡ぬ涙を袖に包みて、白玉の心と肌膚とをかの泥水に委す小女の身の上は悲しきとも悲しき事の極みなり。唯是だに無殘なるを、末とげ難き戀に憂身を窶して、情なき浮世の波に亡き跡までも弄ばるゝとは。

初より戀人のありしは元より、さなくとも父母兄妹の情を離れて、此世ながらの黃泉に入りゆく小女の心は如何にあるやらん。身を賣のみだに恥しきを、友の俤り、隣人の噂、地にも入りたき心地なるべし。今日まで唯厭らしと思居し廓風に今我身を粧ふとき、紅も簪も身に燒入る心地やすらん。電燈眩き店に淺ましき姿を晒し靈を欺く座敷に馴れぬ素振を眞似び、唯男に見つめられてさへ顏あかめし身にて、浮れ男が我容貌の品定めより種々のたはれたる語を聞き、我より先に同じ流にうきしづむ女等の様を見ては我身もいつかあの淺しき心にと、思ふ胸の中はいかにあるやらん。殊に咲そめし花の身を、たはれ男の手折るに委せ、春にゑひし痴蝶と怪しき夢路を辿る時、あゝ其少き胸の內、思やるだに堪へがたき心地せん。されども此時の思だにいつまでも失せずば、我は泣きつゝもなほ其行末に賴を置かんに、軟弱き小女心のいつまでかくてあるべき。柳の糸は風のまに〱靡き花は雨に從て散る。誘ふ水にさそはるゝは浮草の身の常なれば、今日は此方の岸に咲て明日はまた何方へか、それも定め渚の浮寐の鳥、うきたる心にいつしかなりて、我から昔の初心を笑ふに至れば、勤の苦きを嘆きても恥しと思はず。昔ては百年の命惜からずと誓ひし男に欺かれて死なんとまでに恨みし身の、今はわが手管に掛りて身を滅す人をあはれとも思はず。身の成果てを思はぬにあられど思ふても詮なき事と自ら悲運に諦めて、定めなき流に任す間に、いつしか底なき深淵に陷りて、浮ぶすべなくなるも少らず。嗚呼此陰府の中に在りて蕀のうちの花、砂漠の水の如く、淸く麗しく、此處にも、なほエデンの俤を見する者あり。神の賜か、自然の恩惠か、嗚呼情死よ〱汝は實に此淸き水なり、此うるはしき花なり、あゝ汝は世に捨られ辱められし、哀なる小女の敎なる歟、我は神に謝す、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

是ありて初て彼等は心靈の死を免れ、底なき墮落の深淵を出て、幽遠微妙の天境に一躍して入るを得、我は是に心附てより、始て彼等に對する悲感の幾分を慰め得たり、いで此春以來此地に起りし二三の事實をしるして、此悲しき幸に入りにし人々を吊はん。

江戸の華（一）

◎維新の變一火燒き盡すべかりし江戸の華を枝頭に殘らせたるは、前號記載の如く、南洲、海舟二氏の盡力に由ることなるが、此時政府西京に置かせられ、万機山城の内に決行せらるゝこととなりたらんには、殘れる花も花にはあらず、江戸の衰微は非常の事にてありしならん。元來、江戸は大坂と違ひ、大名小名の屋敷、參勤交代の士を當てに商賣したるものなれば、一朝此等の得意去り行きて、其の代りになるべき役人等はなく、政府中心となりての人氣も失せたらんには、江戸は昔の江戸なりとも、殆んど火の消えたる如くなる可りしに、幸にして遷都の旨仰せ出され、明治二年、江戸を改ためて東京とせられ、官署百僚皆な此の地に雲集することとなりしかば、東都の繁昌中絶せず、江戸の東京となれるは、只だ名斗りの變化にて止みたりしこそ目出度けれ。

◎遷都の大策を決したるは、海舟氏の刺激と、大久保甲東氏の果斷とに由れり。抑も當時、龍駕を關以東に轣らせ玉ふなどとは、何人も決して夢想せざりし處、ましてや、幕府將軍の千代田城に、長久へに御座を設けんなどとは、大胆極まりて更に不可思議の程なり、何人ありて能く之を決せんや。海舟氏の刺激も亦格外ながら、甲東の一斷に至つては眞に驚ろくべし。甲東一と度び決して之を京都の士人に語れば、衆愕然として色を失ひ、暫らくして漸次反對せざるものあらざりしが、甲東毅然として果斷し、遂に勅裁を經て忽ち車駕東幸の事行はれけり。

◎今昔の感淺からず。少しく江戸の大昔を忍びて、幸に今日の目出度き祝事あるを賀せんか。抑も、太田道灌は當年の傑士なり。扇ヶ谷管領の爲に江戸城を築き、城代と爲りたるに、識見超凡、氣品廉潔にして、情もあつかりしゆゑ、八州の人心大に歸服したり。後、讒せられて厄にかゝりしが道灌殺されてより、扇ヶ谷は則はち衰へたり。八州の民は之を憾み、之を惜み、追慕の情一と通りにてなかりしと見え、家

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

康も江戸入城の后は、第一に道灌の墓に參詣したり。後、其の遺女を探し出して傍近く召使ひ、其腹に出來たりし子は即ち水戸副將軍となりたり。

◎北條氏亡びて後、其の所領（豆州、相、武、總、上州、及び、近江の地九万石、石部、關地藏、四日市塲、米野、關、白須賀、中泉、清水寺各一千石、島田二千石）悉皆、德川氏の領となれり。岩淵夜話別集に曰く、

關八州家康公御領知となり候ども、御在城の儀は未何方とも不被仰去に依て御旗本の諸人の積十人に七八人は相州小田原と推量仕る其内二三人も鎌倉にて可有御座かなど〻申衆もあり然る處に秀吉公と御相談の上にて武州江戸を御居城と被仰出候に付諸人手を打て是はいかにと驚く仔細は其時迄も東方平地の分は爰もかしこも汐入の蘆原にて町屋侍屋敷を十町と割付べき樣もなく扨又西南の方はビヤウ〳〵と萱原武藏野へ續きこゝをしまりと云べき樣もなし御城と申せば昔より一國を持大將の住たるにも非ず上杉家老の太田道灌齋初て繩を張取立其後北條家の遠山居住せし迄なれば城もちひさく堀の幅も狹く門塀の躰迄中々淺間なる樣子なれば關八州の太守の御座城と可被成樣躰には人々存寄も理りなり然るに段段御普請を仰付られ御旗本や小身衆は地形に手間をとらぬ樣にと仰られ御城より北西にあたり大番町とて最初に屋敷割を被仰付誠に御積の如く岡の土を引ならして谷を埋上げ候故普請の手間少なきなり次に川筋に水除汐除の土居を築葭原を切たて處々に船入の堀河をあけ其土を以て地形を上げ惣町屋を割下され夫より段々に諸大名の居屋敷を御渡なさる其後天下の御座城となり日本國の貴賤寄集り家居をなすに付きて上下の屋舗どり廣大なりと云へども必竟江戸中にて本田のつぶれは少ばかり大方野方入海を以て事濟より就中江戸中へ天下の人民入込申に付田畑の養ひ自由なれば昔徃古よりちがやのみ生じ武藏野も上々の畑に開き立新たに百姓の家居となりし村里數限りもなし然れば御城内より大名屋敷町屋寺社へ掛けて大分の地形の樣子なれば田畑の廣まり候事十双倍なり如此の損德迄賢慮にもる〻儀一もなく當時天下の貴賤入つとひても何一色事の缺くる儀も無之諸用たり候へば萬民居住仕り安し右百年以前關東御入國の砌江戸の樣子承り傳へ考見候

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

へば今如此の都麗なる様子には不被存然るに茅野蘆原の時も後々未々迄繁昌の地たるべきと御下墨被遊大神君の御賢慮奉感も愚なり。

◎江戸市中の大いなる家屋は大抵、元祿の頃ほひより建てそめられたり。大家の記録を見れば明白なるべし。其頃までは人心未だ十分には安堵せず。諸國より集りし商人の未だ出商賣の心地して永久之に落付んとは思はざりしなるべし。然るに、江戸の繁昌、政治の行屆き、文化の行渡り、最早や十分となり、此時よりぞ、人々皆な安堵したる。されば、不思議にもかの男達、俠客など云ふものも亦た此頃より盛んになれり。此は、北條氏、武田氏、其他の落武者、江戸の景況を窺ひ、今にも事あれかしと空頼めして、町外れ又は近在に隠れ居りしが彌よ德川氏安堵、天下磐石と見て取りてより、士氣平民の姿に煥發して、武士以外に一種の武士を現じ、町人の肩を持つて、お國もの、土武士を蹴ちらし、不平鬱憤を痛快に發露せし流れぞ、江戸の男の花とはなれりける。

◎名は實の賓にて、初は夫々の由緒ありての名なれど、今は全く忘じて昔を忍ばぬ人も多かるべし。左に其のあらましを

郡より割きて城地とせし一部分なり。

列擧して、江戸の町名の起元を示し、其上のあらましの狀況を推察せしめんか。

麹町區丈けの戸數人口は、今の北海道全道の戸數人口にも匹敵するほどなれど、昔、矢部村と稱へし廣き原野なり。寛永の初め、幕府の同心町となる。其時、麹を造る家四五軒ありしより、此邊の町々を稱して麹町と云ふ。

東京の中心となり、江戸子の生粋を出す神田は、往昔、伊勢太神宮へ諸國より毎年新米を奉るの例ありて、之を植うる田を神田、御田代、御田など呼び、一國に二三ヶ所ありし此の地恰も當國の神田なりし故、此の名あり。

麻布は今も狸穴、龍土（獵人）、三軒家、などの町名ある如く、至極の偏鄙にて、往古、此邊多く麻を植ゑ、布を織りたる所なり。

四谷には昔僅かに四軒の家ありき。

牛込は古へ牧地にて牛など多く群り居りき。

此外、所々の面白き方を言へば、

祝田町、實田町、元千代田町の三町は、昔し、千代田村、寶田村、祝田村と云ひて、太田道灌江戸築城の際、豊島の

郡より割きて城地とせし一部分なり。

永樂町は、天正年中、伊勢の與市と云ふもの、今の錢瓶橋の邊に洗湯風呂を設けしに入浴者多し、風呂錢は永樂錢一つなりしかば、此の名起る。

今は國會議員の集りて八釜しき日比谷は、むかし海濱にて漁業を營むもの多く住まひし村落なり、漁夫の海苔を採り魚類を捕ふる爲め、ヒヾを立てしより日比谷と云ふ。

今や世界に平等の交際を掌る外務省あるの地こそ、霞の關とて往昔、奥州街道の關門なれ。古人の歌に

徒に名をのみとめてあづま路の
霞の關も春ぞくれぬる（新拾遺集 よみ人不知）

番町に生れて番町知らずと云ふ諺あるほど入組たる番町は四十八番町と云へど、分ちは六番町まで也。元和寛永の頃幕府、此の處に大番組諸士の宅地を給し、一番組より六番組まであり し故なり。

今は文部省もあり高等商業學校もありて、世界の智識を集むとか稱する邊を一つ橋内外と云ふ。元は一本の丸木橋をかけて、引くり返らぬやう危ふく渡りし橋の名殘。

小川町には小川ありしゆゑ、駿河臺は元和寛永の頃、幕府駿河在番の諸士を江戸に移し此處に置しより名く。甲賀組多く住せしあたりを甲賀町と云ふ。三河町も三河ざむらひの住みし所。

鎌倉河岸は、徳川氏築城の際鎌倉より石材を多く取寄せ、此の河岸に陸揚げせしによる。

昔、朝鮮人來聘の節、饗應の雉子、雉を川端に埒を設けて畜養せしが雉子橋にて、其邊の人家を移して出來し町を雉子町と云ふ。

もと中仙道、奥州街道裏道にあたりて旅店多かりしかば、今に旅籠町の名をのこすあり。

幕府の弊政は甲州武士の後藤庄三郎によりて成れり、同人持の金座を置し所を日本橋區内の今の本兩替町とし、其に近く金吹町あり。京橋區の銀座は、慶長十七年より此處に銀座を置き銀貨を鑄造し、後ち享保年中、今の蠣殼町に移す。芝區の新錢座は寛永年中、此地にて新錢を鑄造せしによる。

八重洲町は、蘭人ヤンヨウスが慶長の頃住ひし處、安針町

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

は元和年中、英人アンヂン住居せし處、同人は後歸化して三浦安針と云ふ。淺草區の三好町は、阿蘭陀の黒船來り、碇泊せしとて舟首町と唱へしを後に改めしにて、其に近く黒船町あり、慶長元和の頃、蘭人ハチクワンに給與せし地を今の八官町とす。キリシタン坂も同樣の縁故なり。

三十間堀は初め巾三十間の堀なりしを文政の頃、兩岸を埋め立てたり明暦大火の後、木挽町の海岸を埋め立てたるが築地なり。元和三年、相州小田原の人庄司甚右衞門、葺屋町の傍に二町四方の葭沼を塡め遊廓を開き葭原と稱せしを後ち吉原と改ため、明暦大火の後、淺草にうつして新吉原と云ひ、江戸の繁昌に因て新吉原江戸町と云ふあり。

宗教には冷淡なりと自ら稱す慶應義塾ある今の三田は、往昔、御田の郷と唱へ、稗田八幡の神領の地なり。之に近く阿波の徳島、土佐の高知、讃岐の高松、向側に伊豫の松山の四邸ありしかば、人呼んで四國町と云ふ。三田の四國町は元と平民的の地にあらず。

溜池は江戸市中に分つ用水を溜たる大池のありし地。四谷の舟町はむかし大木を伐出し船舶を造りしほどの地なり。

今は哲學館ある雞聲が窪にちなみて、其傍に曙町あり。森鷗外が優しき文思を吐けど、其の千駄木はむかし林藪深く、日々千駄の薪を伐り出し處、左れば、千駄木山もあり。千駄木林町もあり。織田有樂齋が茶道に數寄を凝せし名殘有樂町もあり、元數寄屋町もあり。

美人　　みわ生

露にぬれにし海棠の
　　つぼみににたる　くちびるを
ひらけばもれん　ことの葉の
　　いかにゆかしく　かをりなむ
水よりなほも　すみわたる
　　まなこの底に　やどりをる
月のひかりの　きよけさに
　　いかなる胸か　すまざらむ
花のいろより　うつくしき

頬にしたる　涙には
偽おほき　世の中の
かげのやどりし　ことぞなき

花の美妙は　その花の
色にはあらで　香にあらず
色香の奥に　みちわたる
いとも妙なる　命なり

妙にくすしき　そのいのち
すめる眼に　くちびるに
清きなみだに　あふれつゝ
浮世を神の　國となす

總て人を教育するには、菊好きの菊を作るが如くすべからず。百姓の菜大根を作るが如くすべし。菊好きの菊を作るは花形見事にそろひ美菊のみを咲かせたく思ふが故、枝を切り、苔を摘み、伸る勢を縮めて、吾好みの如く開かざる花は、花壇中に一本も留めぬものなり。百姓の菜大根を作るは、一本一株も大切にして、一畑の中には、上出來もあり、へぼもあり、大小揃はず、それ〲に育てゝ、良きも悪きも食用に立つるなり、人を教育するも亦之と同じく、材成つて、各其用に適すべし。　紀徳民

時文

◎日本女子百傑　鹽井ふく子著　春陽堂版

女鑑誌上に其才筆を揮つて、久しき以前より日本女子の史傳をものしつゝある鹽井ふく子（小説に於ては白魚女史）が、即ち、其會記の史談を一括して、日本女子百傑と名けて、此書を出版す。筆路流暢、また絢爛、女流の筆としては、近頃見るべく誦すべきものといふべし。書は即ち、古今に亘りて、傳ふべき女子の傳説をものしたるものなれば、婦女坐右の友とし、また家庭の讀書となすに適せり。

◎新著月刊　東華堂版

内田不知庵の「くれの二十八日」は、作者が腹案なる一長篇の發端なりとか、されば、つゞまりつかぬものなれども、作者はたしかに、高尚純潔なる理想を以て、有爲の紳士、淑良の婦人、純潔なる男女の情交を描き出し、野望と戀愛との衝突を語るなんど、近頃のいやらしき小説界に一新頭地を抽かんとの抱負を有するものなるべし。實に近頃目新しく、また理想の高尚なるあたりも、ほの見え、筆に餘程の苦心したる處も見ゆ。譬に今の牛門一派の小説よりは、見ごたへのあるもの、其續編の速に出でんとこそ望ましけれ。なほまた此種の小説の成功して、今の人殺、浮氣、園物小説を壓倒せんことこそ望ましきなれ。風葉の「さぶろこ」いやみなり、キザあり。

◎春陽文庫第九編　春陽堂版

柳浪の「女馬士」を收む。これは曾て中央新聞に見えたるものと覺えたり。春陽文庫も、近來は、二度のお勤め場處となり了りたるか。これもまた例の深刻小説とかいふものなるべし。

女界文壇雜俎　(本誌〆切まで)

◎女子教育所感(中川小十郎)　教育報知第五百七十八號
◎家の風(三宅花圃女史)　太陽第四卷第六號
◎女子の天職(近角常觀)　花の園生第八年第六號
◎女德のしをり(一)(三輪田まさ子)　女鑑第百五十二號
◎所謂婦人の內助(鹿山)　同
◎家庭的茶話會(蘇峯生)　家庭雜誌第百十四號
◎婦人と勞働　同
◎赤十字社看護婦に對する希望(友安治延)　日本赤十字第五十九號
◎男女に尊卑なし(三輪田眞佐子)　女子の友第十八號
◎女子教育(吉村寅太郞)　教育公報第二百九號
◎婦人將來の覺悟(近衞公爵)　大日本婦人教育會雜誌第百二號
◎ナイチンゲール孃と赤十字社事業(渡邊筆子)　同

何事もなしと過ぎ行く柳かな　越人

片々

◎米國無冠の女王　ウイラード逝くや、天下共に之を哀悼す。蓋し米國は一名物を失ひたるなり。米國の女權一層に發達して、女子にして大統領たるものあるに至らん時、而してウイラードなほ生存せんか、此人は即ち、第一の女子大統領なるべき人なり。既に前年大統領候補者に擧げられしことさへあり。孃は實に天下有數の人傑、此人今や逝く、惜みても餘りありといふべし。

◎同孃逝くや、德富蘇峯孃を評して曰く、
同孃は米國婦人にして、亦た徹頭徹尾米國的婦人の粹を拔きたるものと被思候。其の組織的技倆ある、幹事的才能ある、而して其の意志の剛堅にして、有爲の氣象ある。近頃ろ珍らしき女丈夫に候

◎婦人矯風會の將來　ウイラード既に逝いて、此後のW.C.T.U.は如何なりゆくべきや、多くの會合が其首領たるものを喪つて、漸次に勢力を減少するは、歷然たる事實なれば、同會の如きも實は心配なるものなり。但し同會は、有爲の婦人に富めれば、ウイラードの遺業を紹いで、猶且之を盛ならしむるもの或はあらん。されど、其將來は、兎に角に掛念すべきもの、同會たるもの茲に於て一番奮勵するなくんばあらず。

◎ウイラード　の後を受けて矯風會の主腦たるべきものは誰ぞ。さしづめソモルセット夫人ならずんばあらず、同夫人ならば、位と富と學識とに秀でたれば、十分に他を支配するの貫目あるべし。さりながら、病氣なれば、この重任に當るや否や覺束なし。夫人出でずんば、即ち現米國副會頭スチーンブンス夫人か。それとも、故女史の秘書にして、其信任を受けたるゴルドン孃か。

◎女子の雜誌　太陽記者、現今の婦人雜誌中、女鑑、女子の友、女學雜誌、日本の家庭、家庭雜誌、裏錦の六種を評して、褒貶を加へたるが中に、其女學雜誌を評して、基督教主義の教育を目的とする明治女學校々長の主筆にて、論說を初め、其記載する處、自ら此宗教の主義明に顯はれたり、然れば裸躰畫の可を論じ、それ畫かんが爲に用ひらるゝモデルの破倫に非らざるを說きたる論文を揭げたるなど是雜誌の特色を見るべし。其文學趣味は流石に饒なれども、宗教的、悲觀的の文字の多きは、全般の社會には如何なるべきと。

◎吾人は主義の上に立つ敢て世と合せんことを求めず。專ら婦人消閑の友たるを欲するものに非ず、一には女子を誘導し、また社會の婦人を見るを甚だしく誤れるの妄を正さんとするものなり。女子の讀むべき雜誌といふよりも、吾人は無乃、女學研究を以て主眼とするものといはん、爰に於てか、吾人は他の多くの婦人雜誌と列を共にせざるものあり。

◎萬國衞生人口會議　來る四月十四日より同十五日迄伊國マドリッド府に於て開設の同會議には、歐米諸國を始め東洋各邦共斯道の學者を始め、政府代表者無慮二三千人の參列ある由なるが、同會の議題は左の如しと云、

衞生學問題

第一區　衞生に關する細菌學
第二區　傳播すべき疾病の豫防法
第三區　醫學上に關する氣孔學及風土論
第四區　都市衞生
第五區　滋養品の衞生
第六區　兒童及學校衞生
第七區　運動及學動上の衞生
第八區　海陸軍隊衞生
第九區　家畜衞生
第十區　建築及土木上の衞生

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

人口學問題

人口學上の統計學說

第一區　人口學上の統計學說
第二區　人口學に關する統計上の結果
第三區　動力上の人口學

以上の如き問題にして之れに對し、各專問の學者は登壇講演して互に所說を闘はす筈なりと云ふ。尙同會議場には衞生及人口學に關する展覽會の設けある由にて、當時同府の繁昌は想像するに餘りあるべしと云ふ。

◎小學校と饅頭屋　埼玉縣の一村落にある小學校は、其門前に饅頭屋あり。此小學校の習慣法として、新任の教員は、披露として、八十錢乃至一圓の饅頭を教員仲間にオゴルべく、また教員等は每日三錢位つゝを集金して、饅頭會食會を開く。其饅頭屋の一ヶ月間に學校より收入するもの金三十圓計。

◎楠正成　は人を以て作り、忠義の爲に用ゐるものなりとは神奈川一小學生徒の作文『牛は骨と皮にて作り之を殺せばギウとなる』とは、岡山縣一小學生徒の作文。

◎和氣清麿　再たび正一位の贈位を受く。これ近日の奇觀。忠君愛國連の一大失敗。

◎女工の　同盟罷工處々に起る。而してこれ今後ます〳〵多かるべし。

◎日本銀行　にては女子を雇ひて利息の精算をなさしむ。

◎男女懷妊自在法　歐國の一學者、懷姙中母親滋養物を食すると多ければ男兒を生ずべく、少なければ女兒を得べし此の說を立て、目下學者社會の評判となれりといふ。

◎就學兒比例　最近文部省年報にありて、某氏の調査したるものによれば、全國各市の人口に對する現在視學兒童數の割合は左の如しといふ。

	人口百に付		人口百に付		人口百に付
東京	五●四	新潟	六●三	前橋	七●四
靜岡	七●九	仙臺	八●五	弘前	七●四
米澤	七●八	秋田	七●一	山形	七●八
盛岡	七●五	甲府	七●七	宇都宮	六●二
水戸	七●五	横濱	三●九	京都	五●八
大坂	五●七	堺	六●九	神戸	五●三
姫路	五●八	津	六●〇	名古屋	三●八
岐阜	六●七	福井	六●二	金澤	六●八
富居	七●六	高岡	九●一	和歌山	六●三
鳥取	六●九	松江	六●三	岡山	五●二
廣島	七●五	赤間關	五●二	德島	六●二
高松	六●二	松山	六●一	高知	七●五
長崎	三●二	福岡	五●五	久留米	六●五
佐賀	七●一	熊本	六●六	鹿兒島	六●九
平均	五●九				

之に據つて見れば割合の最も多きは越中の高岡市（九●一）にして、其最も低きは、肥前の長崎市（三●二）なりとす。

流行の袷

男物

第一は御召紋織の二枚揃ひ、裏は中花色絹のもの代價四十五圓より五十圓、帶は鼠又は御納戸の紋織博多代價八九圓、羽織は檳榔子（黑）羽二重五ッ紋の無雙仕立、紐は白の都打ちを好み此代價二十圓前後なり。

第二は一樂鼠微塵の上衣に高貴織の角通しを重ね、或は紺地に小豆色大名縞の上衣に亂縞を重れ、裏を中花色か又は薄花色絹となし、此代價（各々）三十五圓より四十五圓、帶は花色御納戸、黑の獨估等最も似合しく代價は七八圓なり、羽織は一樂織にて紺鐵無地か又は鼠の萬筋千筋等裏は風景模様の純子にて代價二十圓前後なり。

第三は大嶋紬の二枚重れ、裏は中花色絹（大嶋紬は相變らず流行せり）にて、代價四十圓、帶は紺又は御納戸獻上博多にて七八圓、羽織は大嶋紬にて十字飛白裏は古代模様の緞子を附けて此代價二十圓前後なり。相變らず流行するは結城紬節絲織等にて、之は商人向に限れど、秩父縞銘仙等は何れにても似合しかるべし。結城紬節糸は一反七八圓より十圓、秩父縞銘仙は三圓五十錢より六圓迄。

女物

御召紋縞の引返しに、紋鹽瀨の比翼附くるは隨分高尙の見立なるべし、先づ御召紋織の上衣に更紗縮緬の比翼を附け、裾廻しを鼠縮緬にするが普通なるべし前者は四十圓、後者は三十圓何れも二枚重ねと知るべし。此衣服に釣合ふべき帶は、矢張例の繻珍なるべく、模様は樣々なれども、要するに着物の色と異なれるを選むべし。代價は限りなく一本十圓もあれば、三十圓もあり、又五十圓のもあり、上等の品を選まば百圓より二百圓まではあるべし。羽織は着用せざるが多き樣にて、從つて何れも帶の上等を好むが常なり。次は縞御召利休又は花色及び御納戸地立縞の上衣に更紗縮緬の比翼附中花色絹の裾廻し等にて、是は代價二十圓前後、帶は黑の繻珍に薄色飛模様繻珍の腹合せなど適當なるべく、代價は十圓より十四圓迄なり。又一枚着に適當なる品は、八王子絲織相變らず勢力あり、米琉球の絣是亦廢りし樣子なく前者は六七圓後者は四圓なり。令孃向は總て前記の品の縞柄模様の異なりたるものと知るべし。

（時事新報）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

時報

◎女子職業學校の割烹科　神田區一ッ橋通町なる女子職業學校にては、今度新に割烹科を設け、來る四月一日より開始す。其學術擔當教師は現任內務省技手醫學士古川榮氏にして、實習擔當は目下近衞公爵家の家庭教員なる小川すみ子なり。同校生は勿論他の官私立學校生徒及夫人細君商家の女子等を問はず、又年齡學力の有無に拘はらず、廣く入學を許す由にて、實習は日常の厨房料理學理は原料の性質配合調理の目的方法等を簡易に教授するなりと。其修業期は八ヶ月にして、前四ヶ月は講義實習每週一度、後四ヶ月は實習のみ一週一度、授業料は一ヶ月一圓、講義實習の中其一を修むる者は六十錢なり。

◎日本婦人の支那植物採集　理學博士伊藤圭介翁の孫女艮子氏は、妙齡の身を以て昨年中より、清國芝罘に當航して、熱心に同地方の植物を採集し、遂に數百品を得たりしかば、今回之を實兄なる伊藤篤太郎氏の許へ送到し來りたれば、同氏は同好の專門家と共に、之を研究して、世に發表すべしとぞ。日本婦人にして、海外に出で、博物採集に從事するもの此人を以て嚆矢となすべし。

◎女學校の擴張　我國現今の女子教育は小學に於ては普及せるも、中等及高等の教育に至ては僅に高等女學校のある外、東京を始め外國人の設置せる居留地內に宗教主義の女學校あるのみにして、邦人の組織よりなる中等以上の女學校は絕無と云ふ實況なるを以て、現任西園寺文相は之を憂ひて、國家經濟の許す度合に於て、女子師範學校を擴張し、大に高等教育を企圖せんとて過般來文部省に於て調査中なりと云ふ。

（日本）

◎ウイラード孃追悼會　二月八日米國紐育に於て死去したる万國婦人矯風會會頭フランセス、イー、ウイラード孃の爲、東京婦人矯風會は、三月廿七日午後三時より、東京青年會に於て大追悼會を催し、安藤太郎、ミス、パリッシユ等の追悼演說あり。

◎少年龜鑑　千葉縣山武郡東金學校生徒平賀政吉（十三）弟藤吉（十）と共に學藝品行同年生に抽づ、偶ま曾祖母病に臥す、兄弟之を看護すること一年餘、近隣之を賞せざるなく、校內に式場を設け善行表彰の典を擧げらる。

◎孝女　巖手縣士族小栗タヨは、纖弱なる婦人の身を以て、窮困の家計を維持し、病臥の父母を看護すること、十有餘年、一日の如し、縣知事至孝を賞して、金五圓を賜與す。

◎海外女界

◎ウイラード女史　二月十八日、紐育府のホテル、エンパイアに於て長逝し、世界は一大損失を招きたり。同孃終焉の事につきては、本誌女學欄內に委し、見るべし。

◎婦人政治家　英國なる婦人プリムローズ同盟政社書記メレシア、チヴイル孃は、身を政界に投じてより、爰に十五年間、其間公衆に向ふて政談演說をなしたること二千回なりといふ。

◎女子天文學　エリザベス、プレストン、ブラウン、デヴイス夫人といへるは、芳紀やうやく三十を過ぐるのみなるが、新航海曆表を案出して、ラプレース表中の一大誤謬にして、多年世界の天文學者の疑問たりしものを正したり。またワシントン、グリンチ天文表を著して版權を得たり。

◎米國婦人參政權同盟會　第十三年會は二月十四日より十九日までの間、ワシントン府に於て開かれたり。

◎サンフランシスコのホール、プリーン夫人といへるは、其亡夫及亡子の紀念の爲に、三万弗を寄附して、同地金門公園に一大アーチを建設せんとす。

◎一桑港婦人　は米國義勇兵の爲めにカリフォルニア洲パット部落サーマリトなる二十エーカー步の一蜜柑林を寄附したり。其價格は一万弗なりといふ。

◎牧師婦人帽子の高さを制限す　米國オハイヨ洲デフイアンスなるメソヂスト教會牧師スミス氏は、婦人の同教會の集會に列して、說教を聽聞する際には、丈高き帽子を被ること能はずと訓令したり。

◎クラ、バートン孃　米國赤十字社長クラ、バートン孃は、二月五日キユーバ島に赴きて、同島の貧母貧兒病者救濟事業を監督せり。

◎遺產十五万弗の寄附　米國婦人にして、去月パリ府に於て死去したるジヨセフイン、エイア夫人の遺言により、米國マッサチユセッツ洲ローウエル市エイア婦人小兒救護院は十万弗を、またフイラデルフイヤ府ペンシルベニア病院へ五万弗ノ寄附を受けたり。

◎万國婦人出版業者大會　米國婦人出版業者會發起になりて、二月十八、十九の兩日、ワシントン府に於て第一回万國婦人出版業者大會を開きたり。同會列席者はホワイトハウスに於て大統領に面會し、また新聞記者、著述家、新聞挿畫師等を招待して、盛に會合したりとなん。

◎自ら外交官ならんことを薦む　米國アイヲワ洲マスケタインのコーラ、チヤレン、ウイード夫人は、同洲著名の公民八百人の連署を以て、自ら瑞西若くは獨乙に外交官たらんことを要求し、願書は、目下、大統領マッキンレーの手許に在り。

◎米國銀行傭使の婦人數　合衆國各銀行に於て雇使する婦人の數及其給料に關する千八百九十三年度の報告によれば當時婦人の數は僅に三百八十三人にして、一人平均一ヶ年給料四百八十弗十一仙なりしに千八百九十七年（昨年）七月十五日の報告によれば、其數四百九十九人に增加し、一人平均一ヶ年給料四百七十七弗六十二仙、其總計二十三万八千三百三十一弗なりといふ。

（東京朝日新聞）

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

再版

福澤先生浮世談

全一冊　正價五錢　郵稅二錢

本書は**福澤先生**が此の程某氏と四方八方の談話中現今我邦男女交際法の圓滿ならさると、即ち**男子**の**不行狀**、**婦人**の**無勢力**よりして遂に家道を紊亂するに至る次第を痛論せられしを其席上社員の速記したるものなり。**一家**の**和氣春**の如きを**望**むものは**男女**を問はす必らす一讀すへき冝書なり。

東京市京橋區南鍋町二丁目十二番地

發行所　電話（編輯用本局一四九　事務用本局三二七）　**時事新報社**

大賣捌

東京神田區表神保町　東京堂

同　京橋區鎗屋町　北隆館

大坂東區備後町　吉岡平助

●各地時事新報賣捌所及書林に於ても賣捌中候

日本の家庭

毎月一回（十五日）發行●一冊價金七錢●半ヶ年分（六冊）前金三拾八錢●一ヶ年分（十二冊）前金七拾錢●總て郵稅なし●爲替振込牛込局

第三卷第九號　三月十五日發行

社說　公共心：：經營生

史傳　「ジヨセヒヌ」の略傳……こにし生

論說　貴族の家庭と平民の家庭とにつきて：：松乃生●勞働者家庭：：：天心生

小說　うてぬ錄（完）：：不二山人

教育　敎育勅語童論（四）：：：星川清成●保育雜談：：松乃生

家事　就眠前の食事●圓銀引換と補助銀貨●通貨の縮少と物貨●女子と提灯●らんぷの火を消し止むるにつきて●郵便電信發受心得●養生を怠るべからず料理法の上手下手：：

雜錄　世界主義の小僧：：抱宇生●節用的家屋裝飾法（二）：：弦月生●當世えせ物語（續）：：乘槎生

米國通信　米國たより（三）：：：有明文吉

其他　●雜報●和歌●俳句新刊寄贈等あり

發行所　東京牛込區新小川町二町目四番地　**日本の家庭社**

東京裁縫女學校々長渡邊辰五郎著

裁縫教授書

全部　三冊
定價金　一圓
郵稅金　八錢

取次販賣　東京巢鴨村庚申塚　**女學雜誌社**

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

巖本嘉志子

一冊正價金六十錢

これ能文達筆の閨秀鹽井ふく子女史の編述する所古きは上古木華咲耶姫玉依姫の昔より近きは百合紅蘭蓮月喜遊等に至る凡て百家の女流を詳述するもの其文は圓妙優麗にして其筆や綺羅纎穠況んや桂舟門下の才女と稱せらるゝ玉桂女史が經營慘憺たる口繪を挿みたるをや圖は楠正行の母が其子を訓誨するの所にして古來幾多の畵伯が筆を爰に染めたりと雖も斯圖の如く嶄新奇抜なるは蓋し少なからんか文は閨秀の才華畵は女流の丹青相待て錦上添花の觀なくんばあらず

發行所　東京日本橋區通四丁目角（電話本局五十一番）　春陽堂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

故若松賤子英文集

巖本嘉志子

一册正價金六十錢
郵稅金六錢

小公子の譯者故若松賤子の英文述作に於けるや筆路頗る流麗なるを以て稱せらる。今此書は即ち女史が英文廿一篇を收めたるものにして、加ふるに女史の師友ブース氏及其他内外知友記する處の女史の小傳追憶記等を以てし、また女史の肖像を掲く。蓋し以て内外家庭の團欒の友となすべく、又以て尋常中學高等女學校等の英語教科書となすに良好なりとす。

發賣所　東京巢鴨村庚申塚　女學雜誌社

『巖本嘉志子』に對する批評

故若松女史が紀念にと、女史が英文の遺稿を集めて、其内外の知己及び良人巖本氏の發行せしものなり。その文字の簡明にして好く選ばれたる、高雅にして然かもなづまざる、流麗清新の文まことにQueen's Englishの純なるものに耻ぢず。神田氏、頭本氏など今の英文士として知られたる人々の筆に成るものより、遙に自然にして生々したる心地す。否本國の女流と雖も、此文を成すもの蓋し多しとするに足るべきか。孤女學院を訪ふの紀の最初のあたり、少しく日本人が詩的形容の流弊に失したる憾みあれど、皇后陛下、皇太子殿下の御事を記し奉るの文字などめでたく覺ゆ。こし方行末と題せる終りの一文、又一つの書簡に函館難船の事を記せるもの最も筆力を見る。女子教育と基督新教とは最も深く女史が心に印せし如くに思はる。この有爲にして清新の思想を抱くの女史、早く故人となりてこの遺集をなす、これを惜しむもの、豈に其知己朋友のみならんや。

(文學界第四十七號「明治二十九年十一月三十日」)

(次號には故萬國婦人矯風會長ウイラード女史の評傳並に肖像を掲くべし)

社會學社會問題及社會政策の評論

社會雜誌

三月刊行

近東外交三奇觀……社說
政府無益の世話……仝
豐國廟……仝
附け景氣……仝
官吏敏腕不可論……仝
現今の政黨と將來の社會運動……山形東根
(一)自由黨(二)進步黨(三)國民協會、國民黨(四)現今の政黨と社會政策主義の傾向(五)社會黨的政派の起伏
社會學一斑(社會結合力を論す)……高木正義
タードの摸擬說●ドユルクハイムの强壓說●同情說●ボードウヰンの思想說●其他
社會的科學界に於ける統計……河合利安
工女問題……觀潮菴
工女統計●其害況●救治策
濟貧病院の計營を望む……石川惟安

同志社事件詳報(十五頁餘に涉る頗る精細の評論)

日本鐵道會社の同盟罷工
(一)罷工せし理由(二)罷工の成行(三)諸新聞の評論(四)總評
昨今の同盟罷工
白河製絲會社工女●福島紡績會社●府下形付職工●鵜沼セメント會社人夫●其他數件
内地雜居準備問題
改正條約と臺灣●對外思想上の問題●園田警視總監の雜居談●青木子爵の雜居談該問題研究の傾向
後藤局長の勞働者保險談
職工病疾保險法の實施●三菱造船所の職工救護法●生計の程度と開化の關係●東京感化院感化成蹟●東京出獄人保護事業成蹟
黨臭紛々談
勝伯●大隈伯●板垣伯●品川子●松田正久氏●林有造氏等の所談及び板垣伯の演說
總撰擧の結果奈何
迫害せよ然らざれば勝負せよ
同志社問題附故新島先生を評す……青柳猛
宗教論壇
社會論壇

一册十錢●郵稅一錢●六册六十五錢●凡て前金

麴町區下六番町六番地　社會雜誌發賣所

明治廿五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY